

【概要版】

**在宅介護実態調査
報告書**

令和8年3月

見 附 市

＜目 次＞

1	調査概要	1
	（１）調査目的.....	1
	（２）調査方法.....	1
	（３）回収結果.....	1
	（４）集計結果の表示について	1
2	調査結果	2
	◇調査対象者本人について	2
	（１）在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討.....	4
	①家族等による介護の状況	4
	②施設等検討の状況	6
	③介護者が不安に感じる介護	7
	④サービス利用の状況	8
	⑤サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況の関係	9
	⑥サービス利用の組み合わせと主な介護者が不安に感じる介護の関係	10
	⑦サービス利用の回数と施設等検討の状況の関係	11
	⑧サービス利用の回数と主な介護者が不安に感じる介護の関係	12
	（２）仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討.....	13
	①主な介護者の就労状況	13
	②主な介護者が行っている介護と就労継続見込み.....	16
	③サービスの利用状況・不安に感じる介護と就労継続見込みの関係.....	18
	④介護保険外の支援・サービスの利用状況と施設等検討の状況	20
	⑤介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援について.....	22
	（３）介護保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討.....	25
	①介護保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス.....	25
	②世帯類型、要介護度別の必要と感じる支援・サービス.....	26
	（４）将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討.....	28
	①要介護度と世帯類型	28
	②要介護度×世帯類型別のサービス利用の組み合わせ	29
	（５）医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	30
	①訪問診療の利用割合	30
	②訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ	30

(6) 見附市独自設問	31
①ケアプランの満足度	31
②整備が必要なサービス	32
③介護保険サービスと保険料について	33
④家族による介護か、専門家による介護を希望するか	34
⑤人生の最期について	36

1 調査概要

(1) 調査目的

第10期介護保険事業計画を策定するにあたり、高齢者の健康状態や日常生活等、地域の実情を把握し、介護保険サービスや福祉サービス、また健康づくり事業の一層の向上を図るための基礎資料とすることを目的として実施しました。

(2) 調査方法

- 調査対象者：要支援、要介護認定者(施設入所者等を除く)の市民から無作為抽出
(今回調査より40歳～64歳までの第2号被保険者も調査対象としています)
- 調査基準日：令和7年12月1日
- 調査期間：令和7年12月～令和8年1月
- 調査方法：郵送による配布・回収

(3) 回収結果

- 調査対象者数：800人
- 回収数(回収率)：522件(65.3%)
- 有効回答数(回答率)：522件(65.3%)

(4) 集計結果の表示について

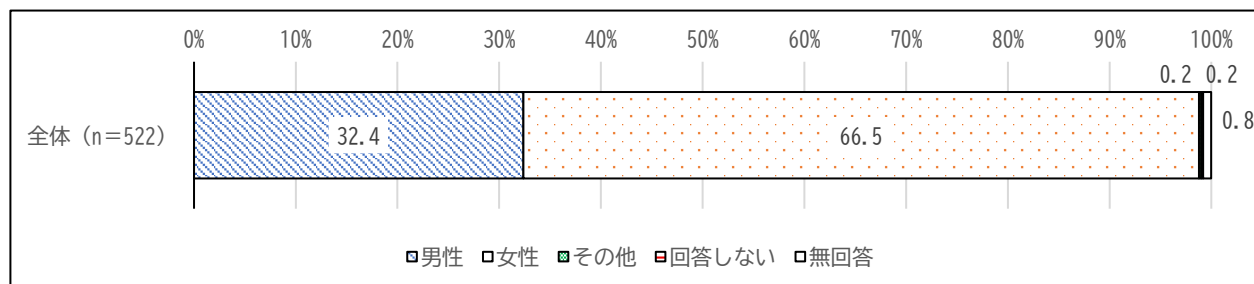
- ①報告書中の「n」の数値は、設問への回答者数を表します。
- ②回答の比率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。
このため、回答率の合計が100.0%にならない場合があります。同様に、回答件数の合計の割合は表示されている割合の合計値とは一致しないことがあります。
- ③回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、回答率の合計が100.0%を超えることがあります。
- ④クロス集計結果については、項目等に「無回答」があるため、全体の示す数値とは一致しない場合があります。また、集計の意図に応じて、注で指摘している場合の他にも選択肢の結合や選別をしている場合があります。
- ⑤報告書では一部、国が提供する「在宅介護実態調査_自動集計分析ソフト」による集計結果も掲載しています。当該図表には「自動集計ツールより」と表記しています。

2 調査結果

◇調査対象者本人について

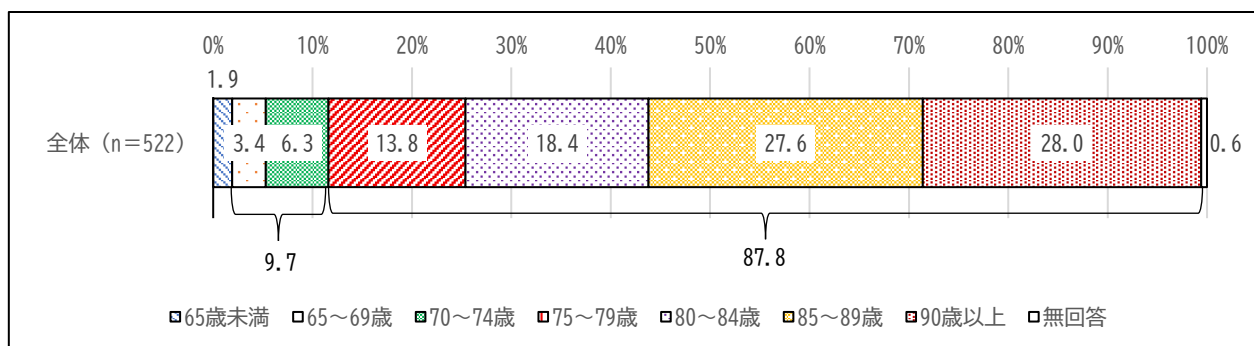
①性別

「男性」が32.4%、「女性」が66.5%、「その他」と「回答しない」がともに0.2%となっています。



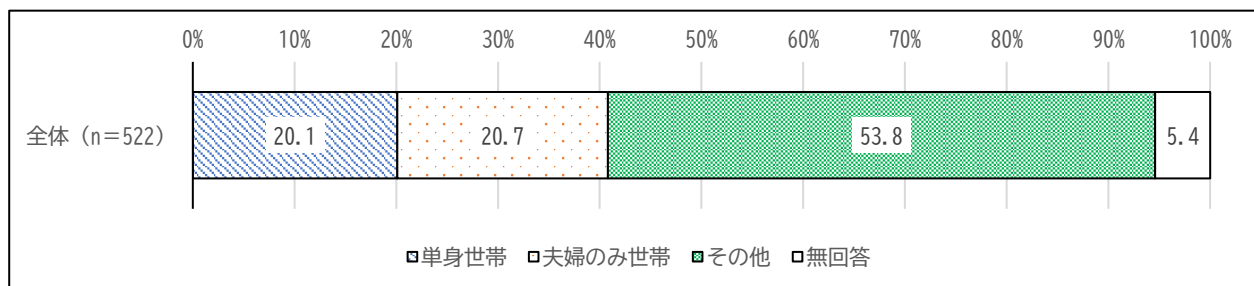
②年齢

65歳未満（介護保険第2号被保険者）が1.9%、前期高齢者「65～74歳」が9.7%、後期高齢者「75歳以上」が87.8%となっています。



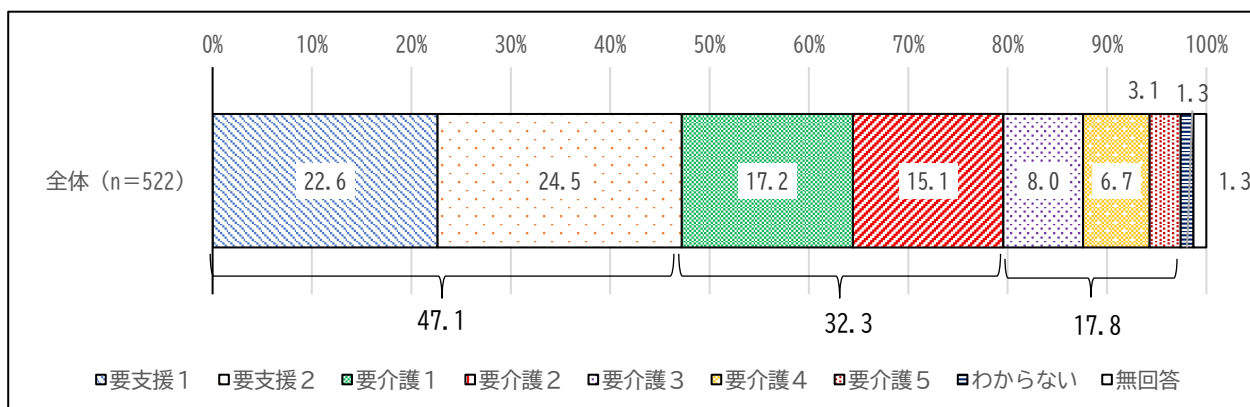
③世帯類型

「単身世帯」が20.1%、「夫婦のみ世帯」が20.7%、「その他」が53.8%となっています。



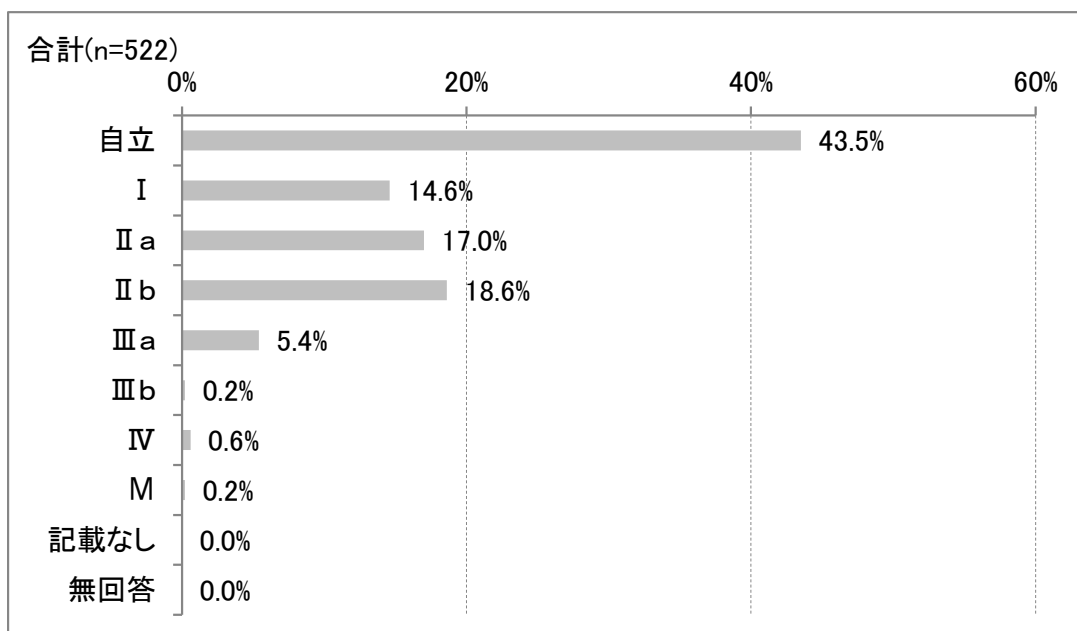
④認定区分

「要支援１・２」が47.1%、「要介護１・２」が32.3%、「要介護３以上」が17.8%となっています。



⑤認知症日常生活自立度(自動集計ツールより)

自動集計ツールにより回答者の認知症日常生活自立度をみると、「自立」が43.5%、「Ⅰ」が14.6%、「Ⅱa」が17.0%、「Ⅱb」が18.6%、「Ⅲa」が5.4%などとなっています。3区分では「自立＋Ⅰ」が58.1%、「Ⅱ」が35.6%、「Ⅲ以上」が6.4% となっています。

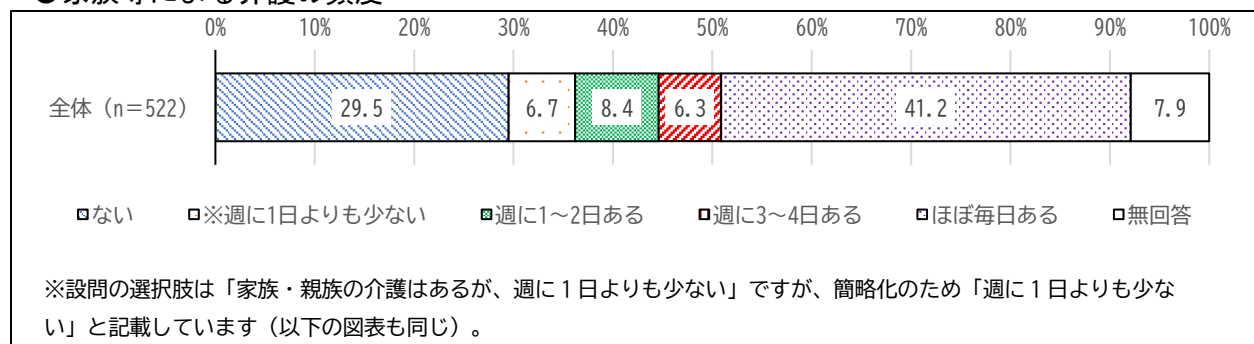


(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

① 家族等による介護の状況

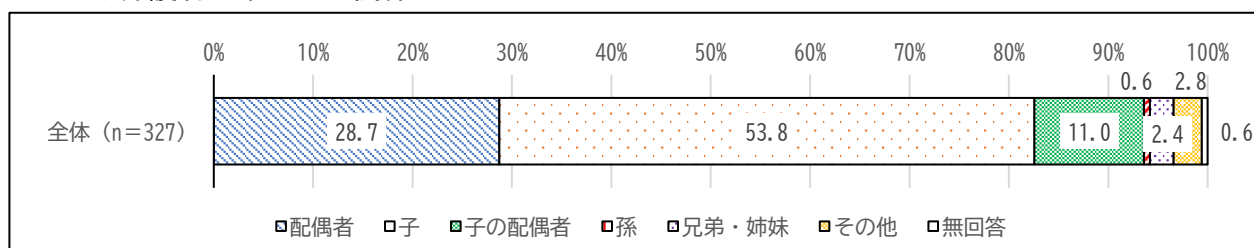
家族等による介護の頻度は「ほぼ毎日ある」が41.2%、「週に3～4日ある」が6.3%、「週に1～2日ある」が8.4%などとなっています。一方、「ない」は29.5%となっています。

● 家族等による介護の頻度



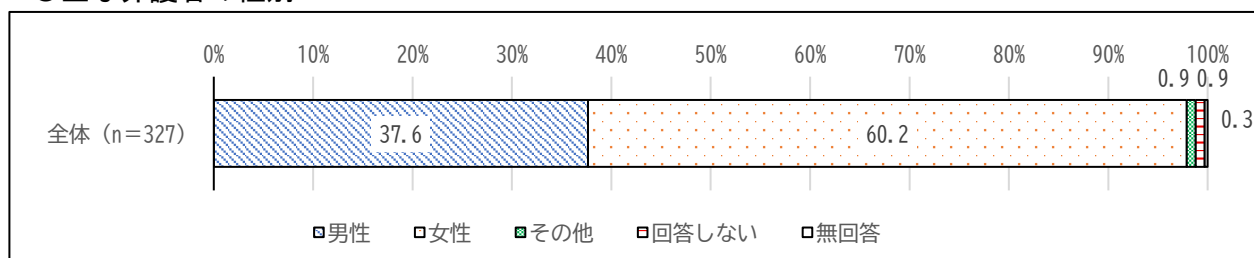
主な介護者と本人との関係は、「子」が53.8%で最も高く、次いで「配偶者」が28.7%、「子の配偶者」が11.0%の順となっています。

● 主な介護者と本人との関係



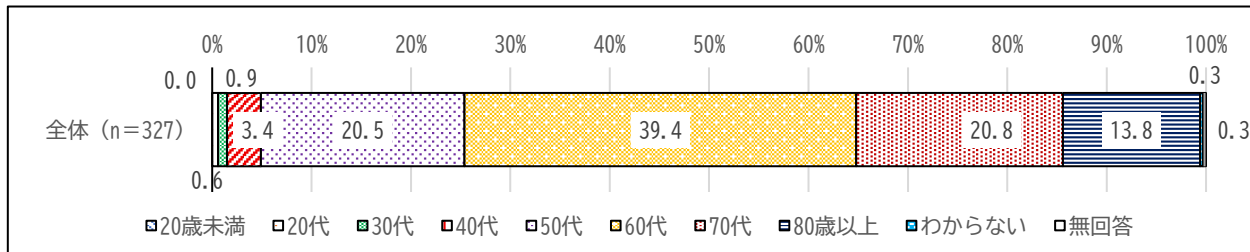
主な介護者の性別は「女性」が60.2%、「男性」が37.6%などとなっています。

● 主な介護者の性別



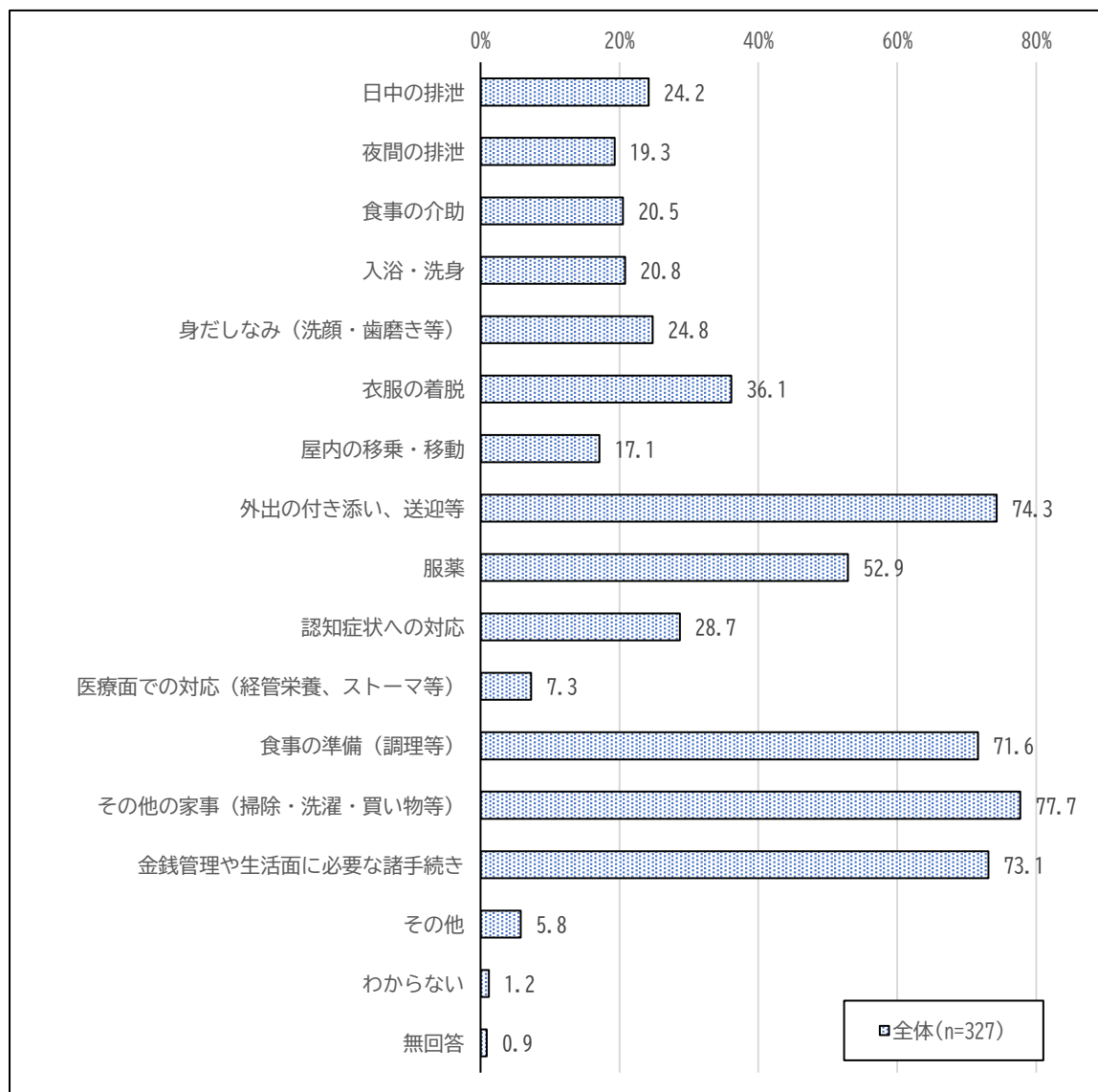
主な介護者の年齢は、「60代」が39.4%で最も高く、次いで「70代」が20.8%、「50代」が20.5%の順となっています。

●主な介護者の年齢



主な介護者が行っている介護をみると、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が77.7%で最も高く、「外出の付き添い、送迎等」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」「食事の準備（調理等）」の割合が高くなっています。

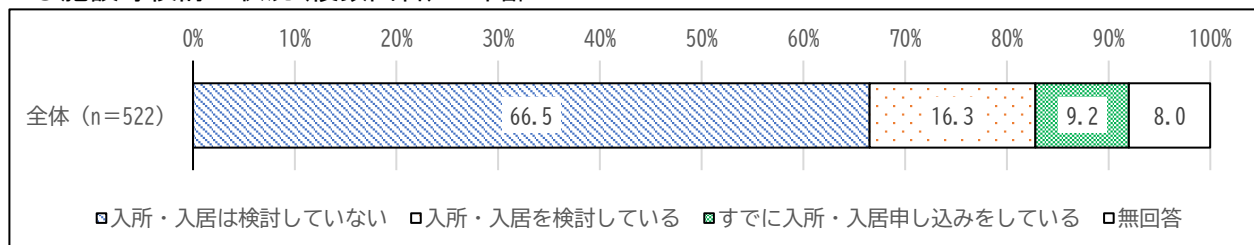
●主な介護者が行っている介護（複数回答）



②施設等検討の状況

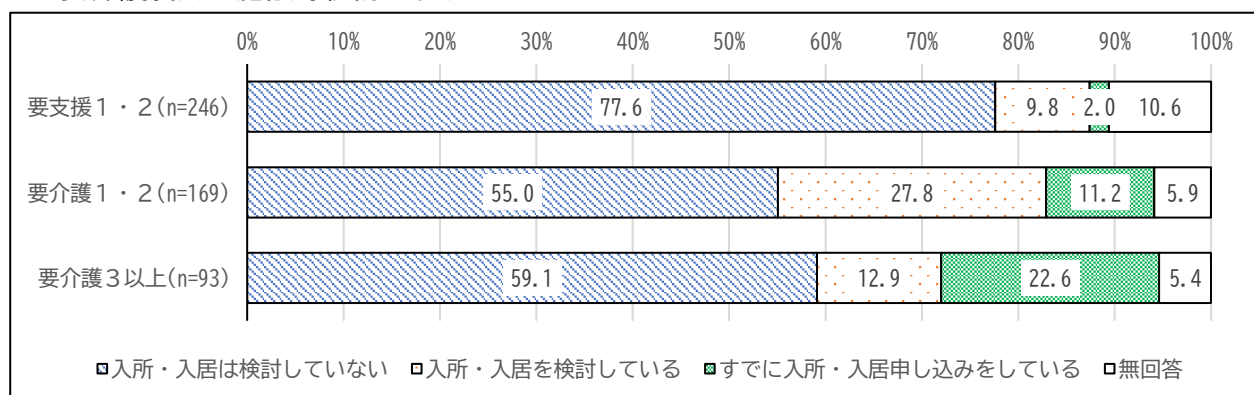
現時点での、施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が66.5%、「入所・入居を検討している」が16.3%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が9.2%となっています。

●施設等検討の状況(複数回答)の年齢



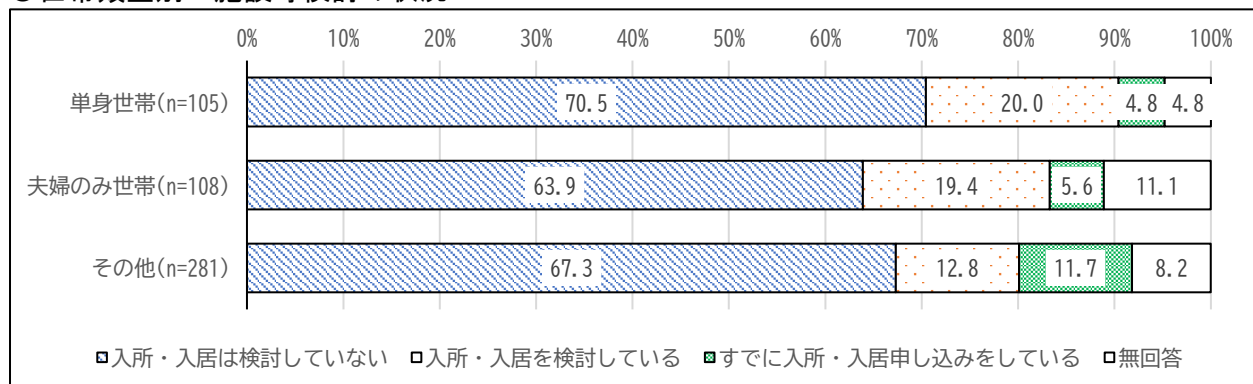
要介護度別に施設等検討の状況をみると、重度化に伴い「すでに入所・入居申し込みをしている」の割合が高くなっています。

●要介護度別・施設等検討の状況



世帯類型別にみると、「入所・入居は検討していない」の割合が最も高いのが「単身世帯」で、「すでに入所・入居申し込みをしている」は「その他」の世帯で最も高くなっています。

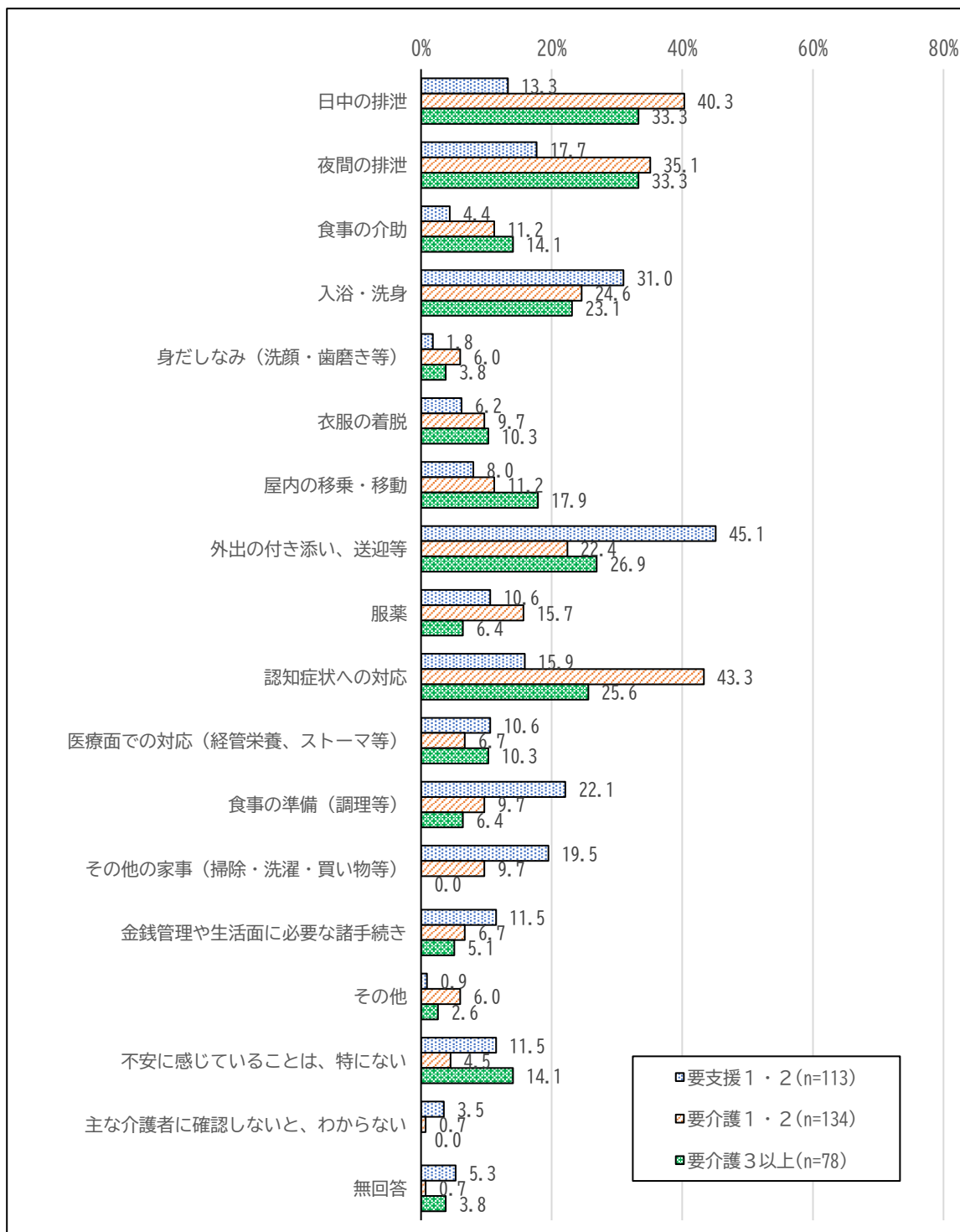
●世帯類型別・施設等検討の状況



③介護者が不安に感じる介護

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護について要介護度別にみると、「要支援１・２」では、「外出の付き添い、送迎等」が45.1％と一番高く、次いで「入浴・洗身」(31.0％)、「食事の準備（調理等）」(22.1％)の順となっています。「要介護１・２」では、「認知症状への対応」が43.3％で最も高く、次いで「日中の排泄」(40.3％)、「夜間の排泄」(35.1％)の順となっています。「要介護３以上」では、「日中の排泄」「夜間の排泄」がいずれも33.3％で最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎」が26.9％、「認知症状への対応」が25.6％などとなっています。

●要介護度別・介護者が不安に感じる介護(複数回答)

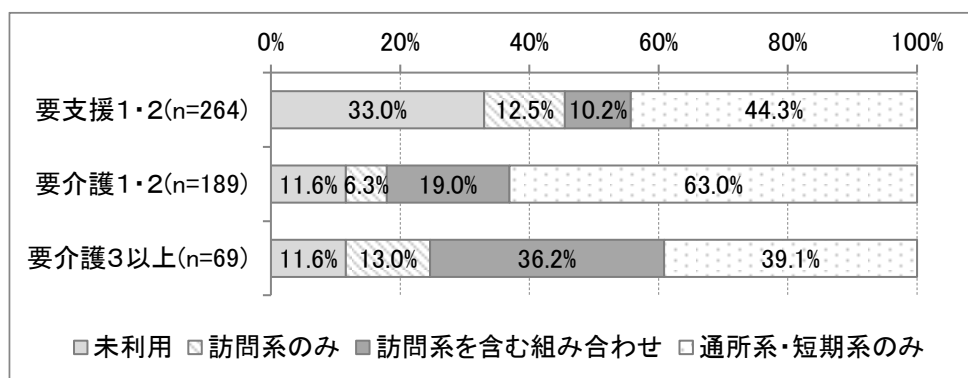


④サービス利用の状況

介護保険サービスの利用回数・利用の組み合わせ等に着眼した集計・分析を行うため、介護保険サービスを大きく、「訪問系」「通所系」「短期系」の3つに分類して集計しました。介護保険サービスの中には介護予防・日常生活支援総合事業を通じて提供される「介護予防・生活支援サービス」も含まれます。

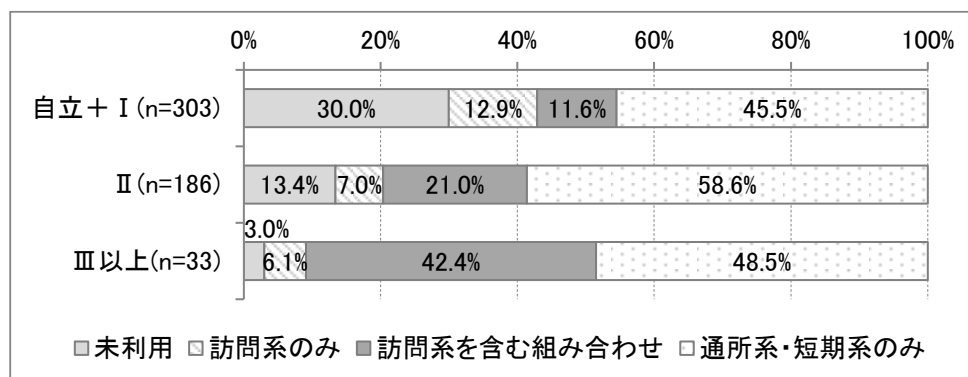
自動集計ツールを利用し、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらに訪問系と他のサービスを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類し、要介護度との関連をみると、重度化に伴い「未利用」の割合が低下し、「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が、「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」の割合が増加しています。一方、要介護3以上でも「未利用」が11.6%となっています。

●要介護度別・サービス利用の組み合わせ（自動集計ツールより）



認知症自立度別にみると、重度化に伴い「未利用」の割合が低下し、認知症自立度「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が、「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」の割合が上昇しています。また、「Ⅲ以上」では「未利用」は3.0%となっています。

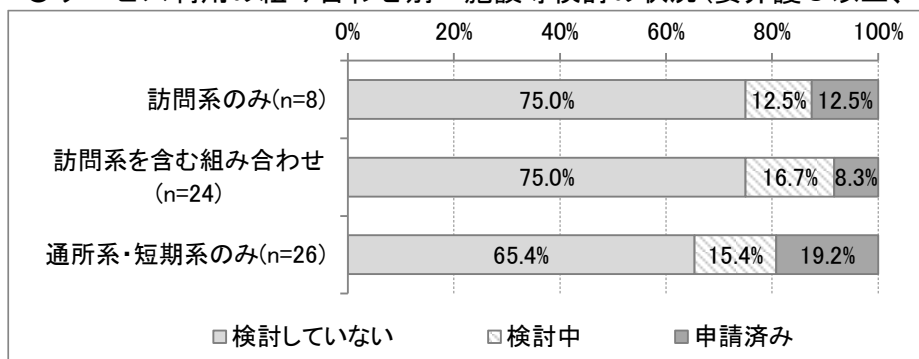
●認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（自動集計ツールより）



⑤ サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況の関係

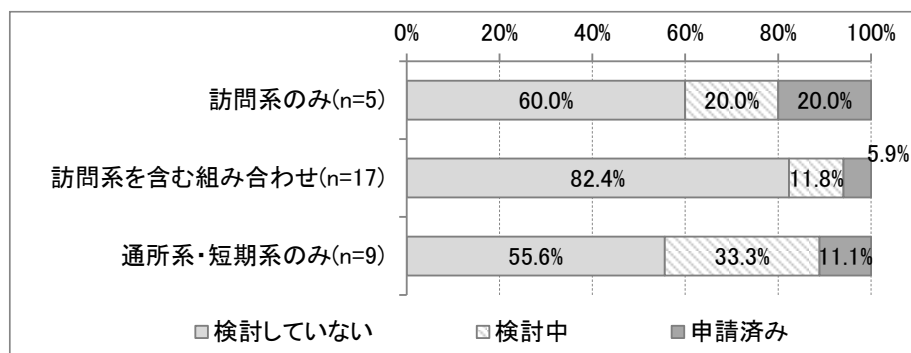
自動集計ツールを利用し、要介護3以上の対象者について、サービス利用の組み合わせ別の施設等検討の状況をみると、「検討していない」の割合は「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」でやや高く、「通所系・短期系のみ」でやや低くなっています。一方、「申請済み」は「通所系・短期系のみ」の利用者でやや高くなっています。

● サービス利用の組み合わせ別・施設等検討の状況（要介護3以上、自動集計ツールより）



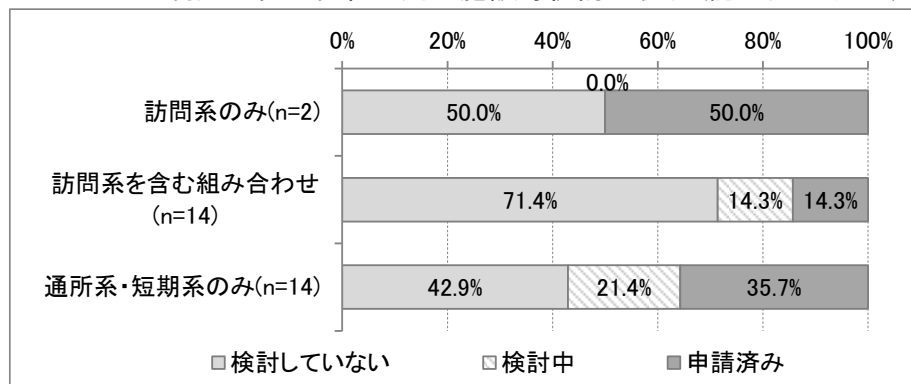
要介護4以上の対象者に限ってみると、「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が82.4%で特に高くなっています。

● サービス利用の組み合わせ別・施設等検討の状況（要介護4以上、自動集計ツールより）



認知症自立度Ⅲ以上の対象者でみると、「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が71.4%で特に高くなっています。

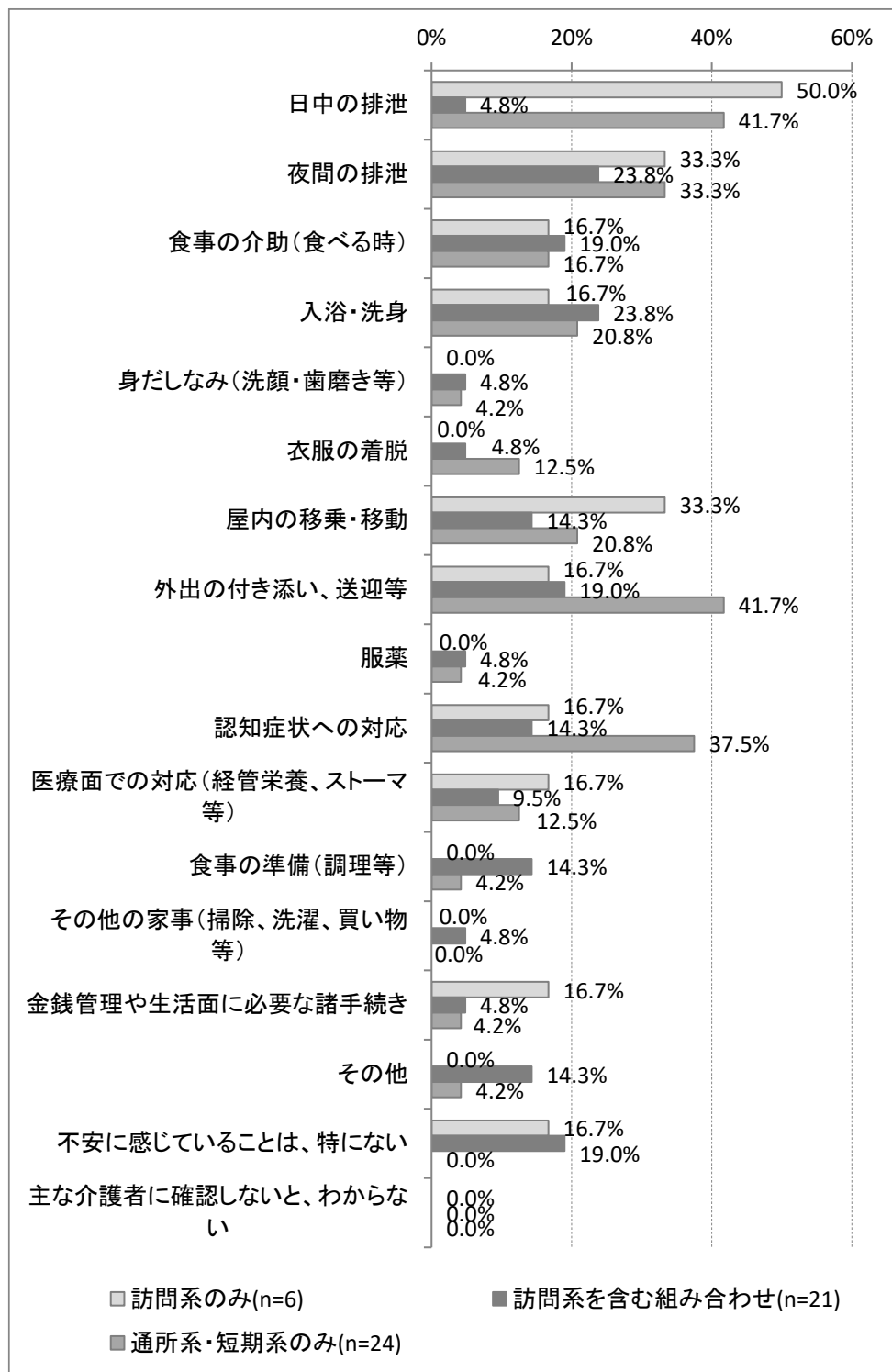
● サービス利用の組み合わせ別・施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上、自動集計ツールより）



⑥サービス利用の組み合わせと主な介護者が不安に感じる介護の関係

自動集計ツールを利用し、要介護3以上の対象者について、サービス利用の組み合わせと主な介護者が不安に感じる介護の関係をみると、特に介護者の不安に感じる割合が高い「外出の付き添い、送迎等」「認知症状への対応」については「通所系・短期系のみ」の利用者で高く、「日中の排泄」「夜間の排泄」は「訪問系のみ」「通所系・短期系のみ」で高くなっています。一方、「訪問系を含む組み合わせ」の利用者ではいずれも不安を感じる割合が比較的低くなっています。

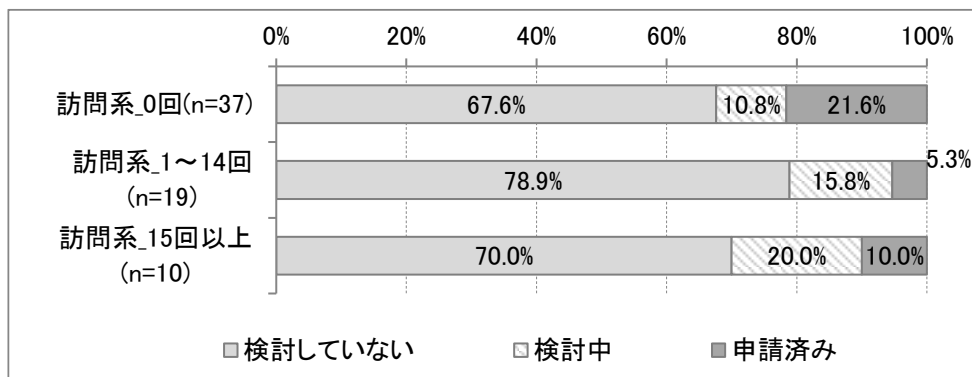
●サービス利用の組み合わせ別・主な介護者が不安に感じる介護 (要介護3以上、自動集計ツールより)



⑦サービス利用の回数と施設等検討の状況の関係

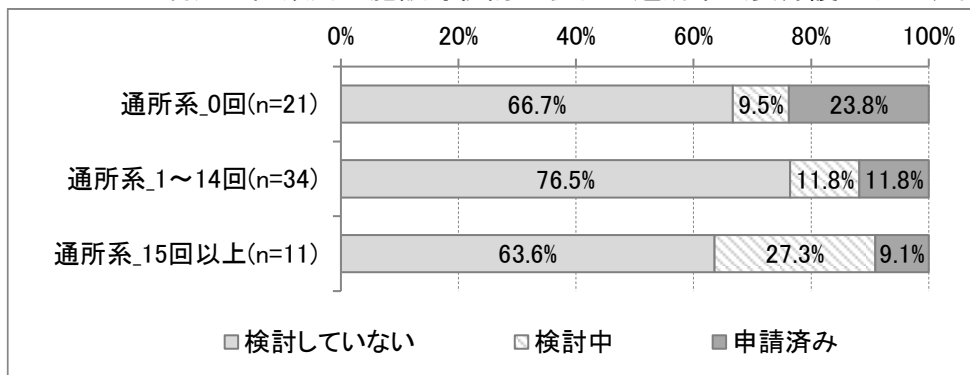
自動集計ツールを利用し、要介護3以上の対象者について、「訪問系サービス」の利用回数と施設等の検討状況の関係をみると、「検討していない」の割合は「訪問系1～14回」が最も高く、次いで「訪問系15回以上」となっています。一方、「申請済み」の割合は「訪問系0回」で最も高くなっています。

●サービス利用の回数別・施設等検討の状況：訪問系（要介護3以上、自動集計ツールより）



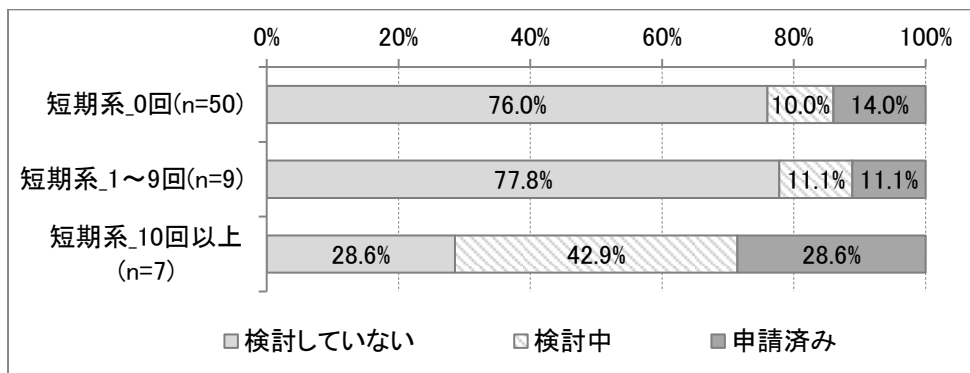
「通所系サービス」の利用回数と施設等の検討状況の関係をみると、「検討していない」の割合は「通所系1～14回」で最も高く、次いで「通所系_0回」となっています。

●サービス利用の回数別・施設等検討の状況：通所系（要介護3以上、自動集計ツールより）



「短期系サービス」の利用回数と施設等の検討状況の関係をみると、「検討していない」の割合は「短期系1～9回」「短期系0回」で高くなっています。一方、「申請済み」の割合は「短期系_10回以上」で高くなっています。

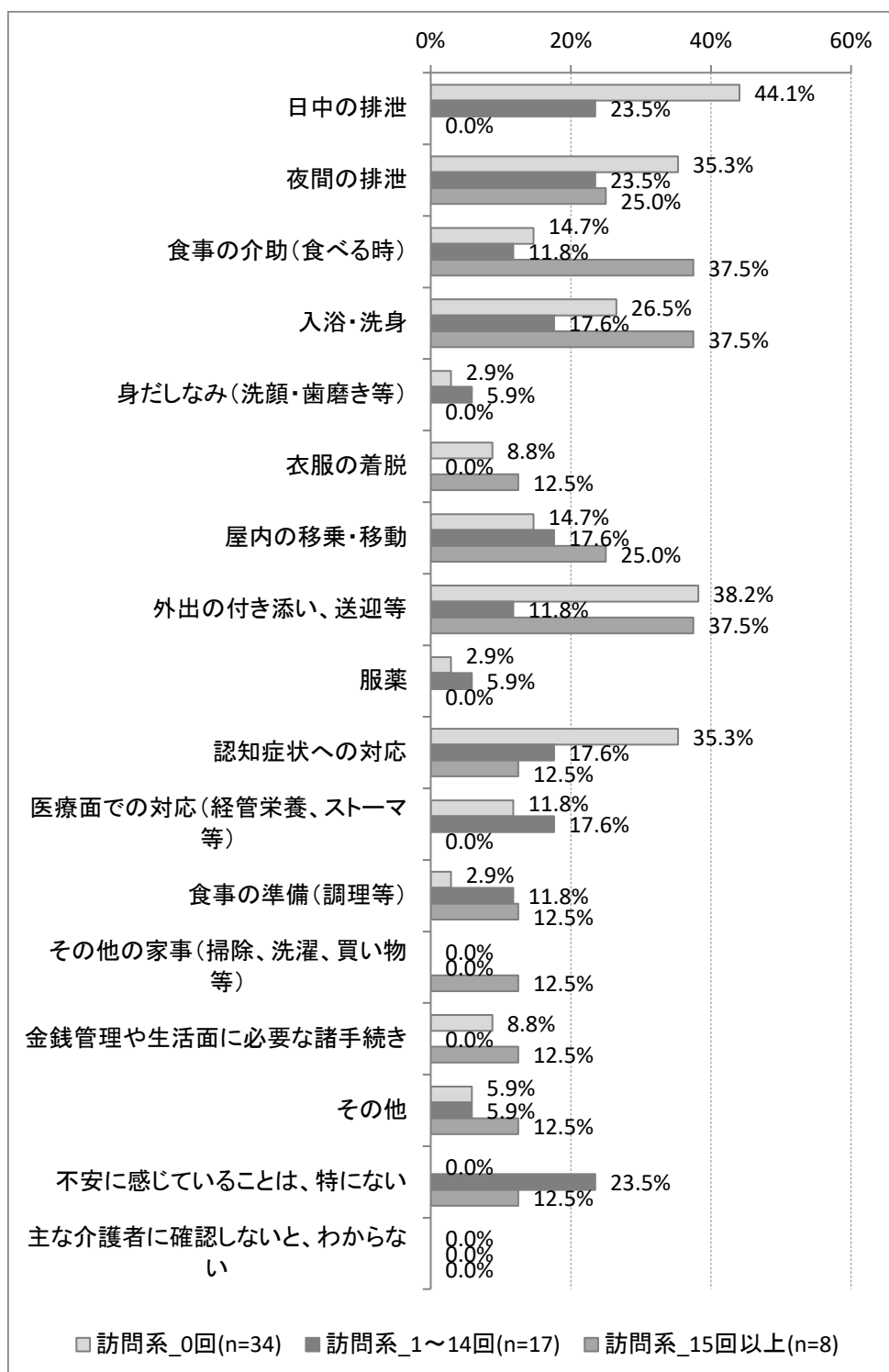
●サービス利用の回数別・施設等検討の状況：短期系（要介護3以上、自動集計ツールより）



⑧サービス利用の回数と主な介護者が不安に感じる介護の関係

自動集計ツールを利用し、要介護3以上の対象者について、「訪問系サービス」の利用回数と主な介護者が不安に感じる介護の関連をみると、主な不安事項のうち「外出の付き添い、送迎等」は「訪問系_0回」と「訪問系15回以上」がほぼ同割合となっています。一方、「認知症状への対応」「日中の排泄」「夜間の排泄」についてはいずれも「訪問系0回」で不安を感じる割合が最も高く、総じて訪問系の利用回数が増えるほど不安を感じる割合が低くなっています。

●サービス利用回数別・主な介護者が不安に感じる介護：訪問系 (要介護3以上、自動集計ツールより)

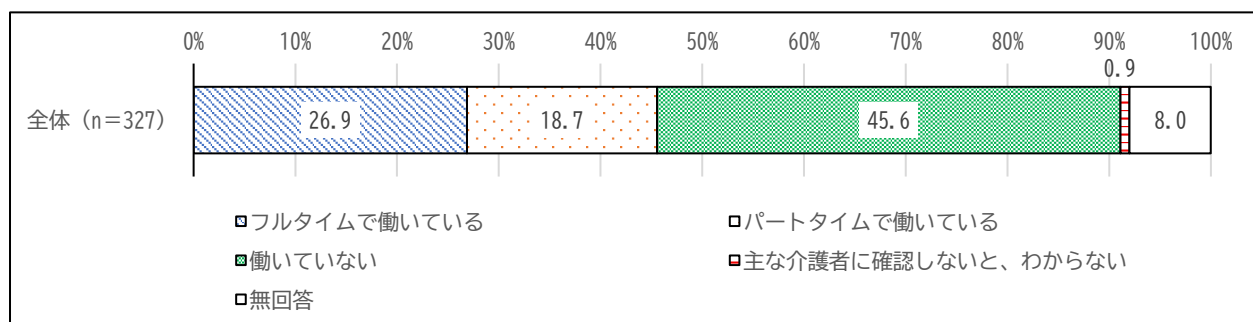


(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

①主な介護者の就労状況

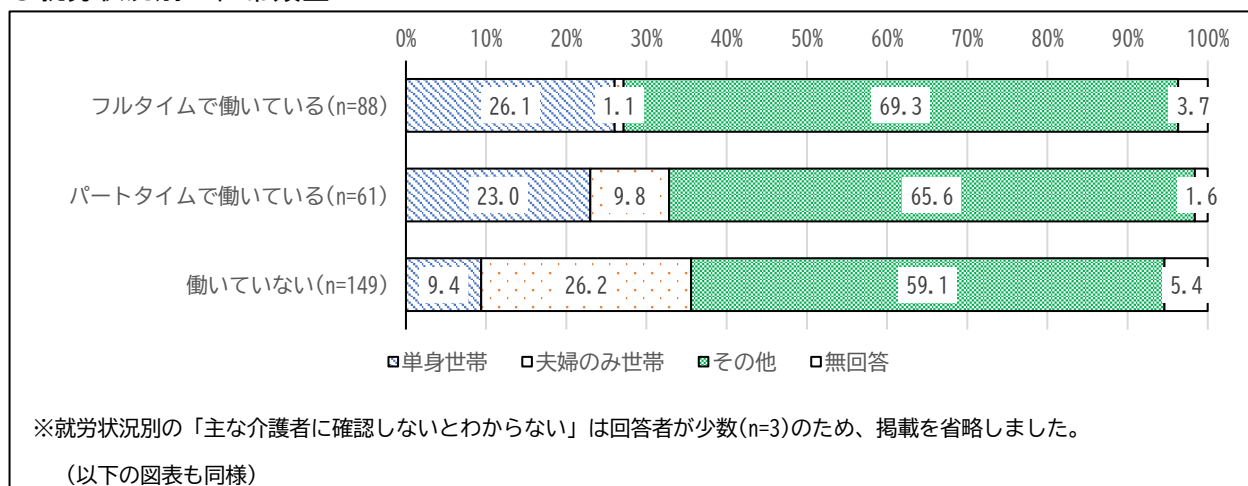
主な介護者の就労状況は、「働いていない」が45.6%で最も高く、「フルタイムで働いている」は26.9%、「パートタイムで働いている」は18.7%となっています。

●主な介護者の就労状況



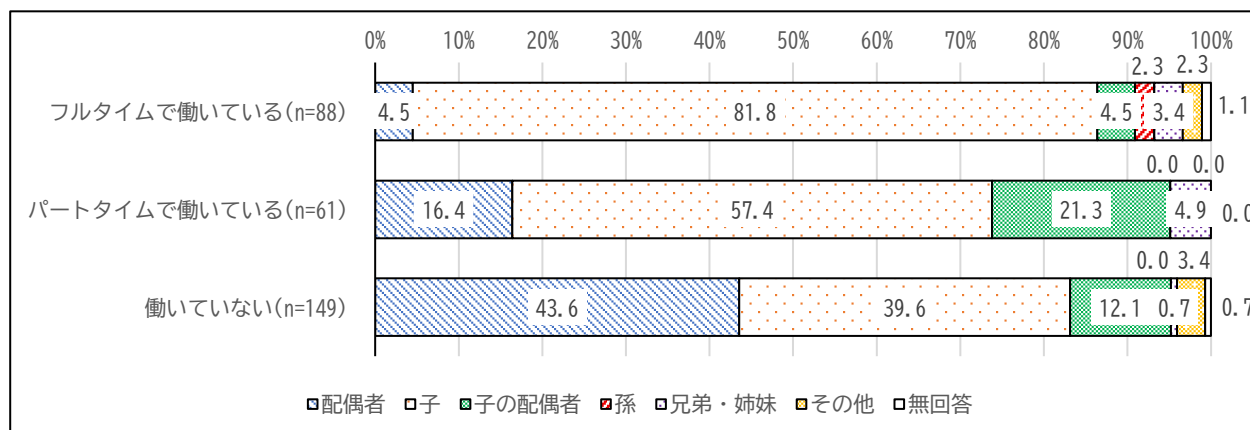
働いている介護者の特徴を明らかにするため、就業状況別に世帯類型をみると、フルタイムまたはパートタイムで働いている介護者は「働いていない」に比べ、「単身世帯」「その他」の世帯類型の割合が高く、「夫婦のみ世帯」が低くなっています。また、この傾向は「フルタイムで働いている」介護者が「パートタイムで働いている」介護者より強く現れています。

●就業状況別・世帯類型



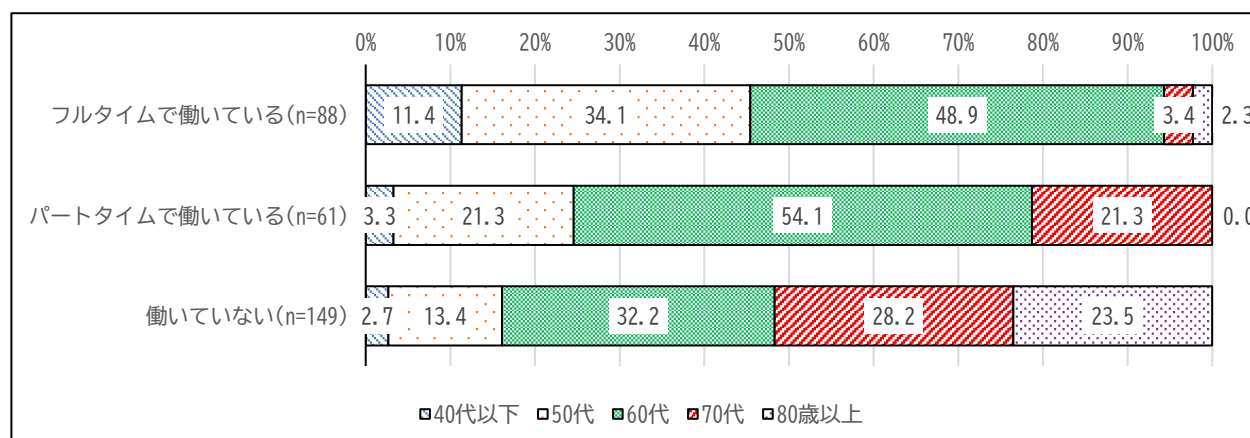
就労状況別に主な介護者と本人との関係をみると、介護者が就労している場合は「子」の割合が高く、「フルタイムで働いている」では81.8%、「パートタイムで働いている」では57.4%となっています。働いていない介護者は「配偶者」が43.6%で最も高く、「子」が39.6%となっています。

●就労状況別・主な介護者の本人との関係



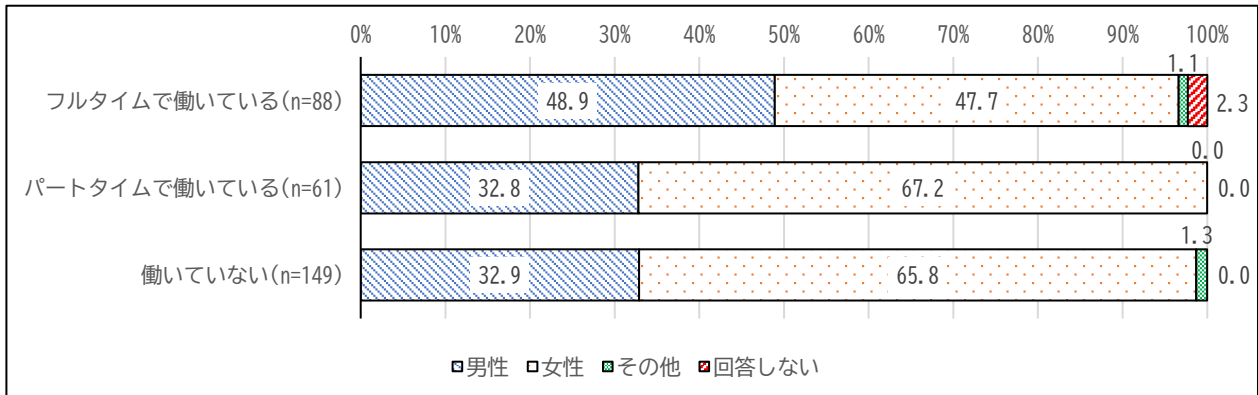
介護者の就労状況別にみた主な介護者の年齢は、「フルタイムで働いている」では「60代」が48.9%で最も高く、次いで「50代」(34.1%)、「40代以下」(11.4%)となっています。また、「パートタイムで働いている」では「60代」が54.1%で最も高く、次いで「50代」「70代」がともに21.3%となっています。一方、「働いていない」では「60代」が32.2%で最も高く、次いで「70代」(28.2%)、「80歳以上」(23.5%)となっており、総じて働いている介護者に比べ高年齢の割合が高くなっています。

●就労状況別・主な介護者の年齢



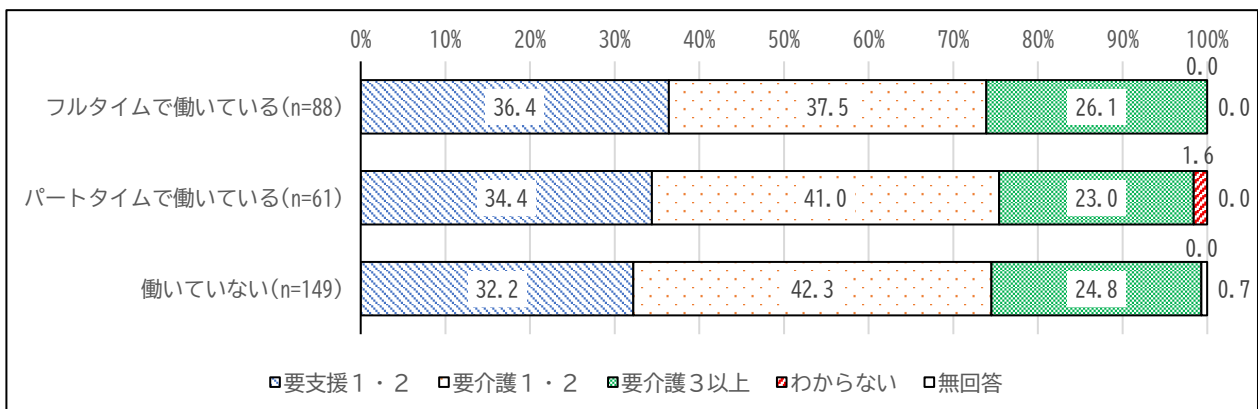
介護者の就労状況別にみた主な介護者の性別は、「フルタイムで働いている」では他の就労状況に比べ「男性」の割合が高くなっています。

●就労状況別・主な介護者の性別



介護者の就労状況別に本人の要介護度をみると、大きな差ではないものの「働いていない」介護者に比べ「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」では「要支援1・2」の割合が若干高くなっています。一方、「要介護3以上」の割合は「フルタイムで働いている」介護者で最も高くなっています。

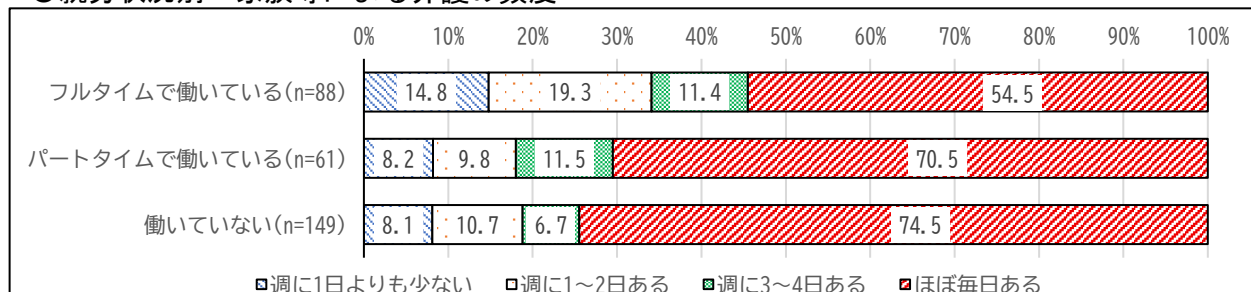
●就労状況別・要介護度



②主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

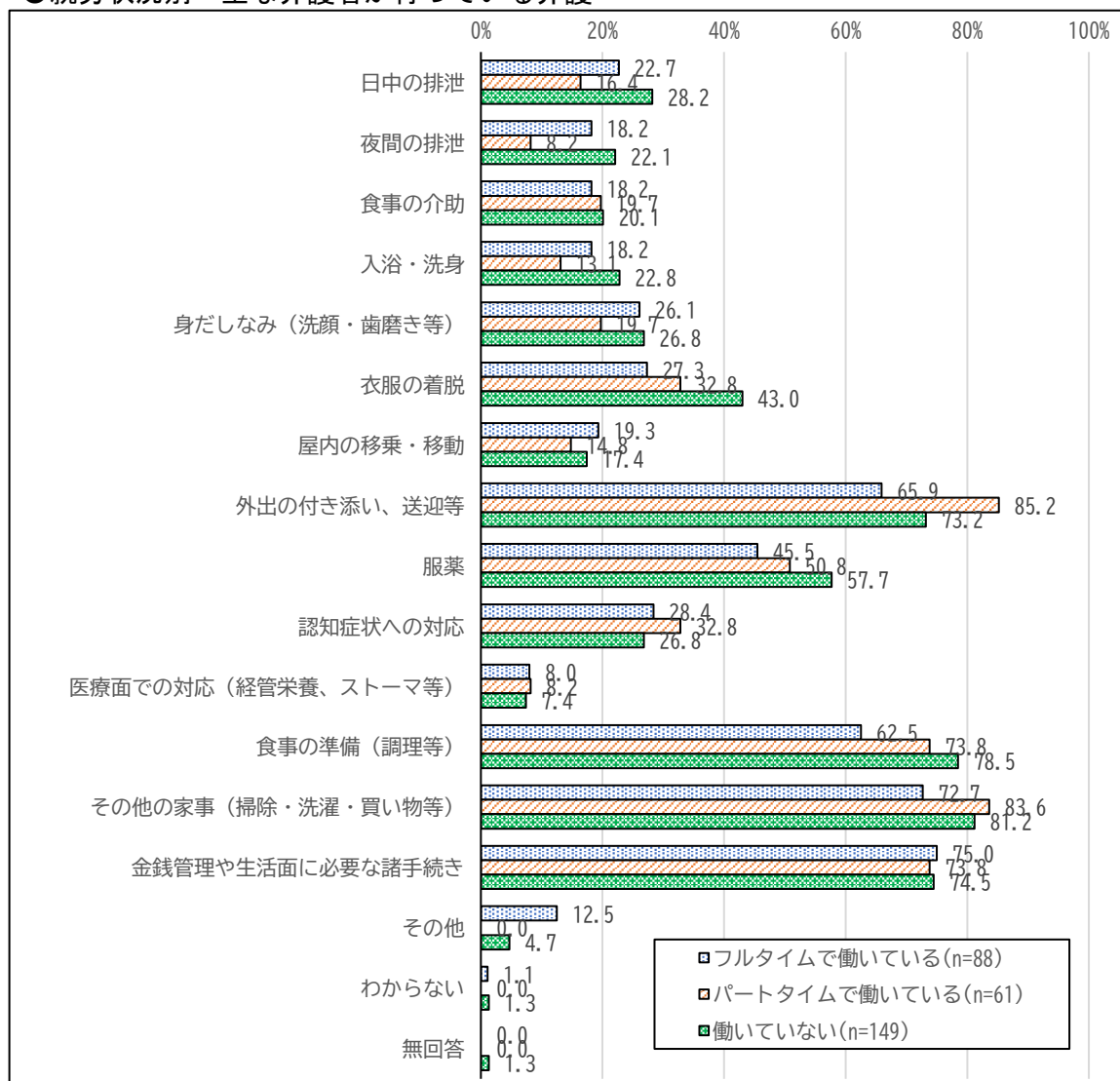
介護者の就労状況別に家族等による介護の頻度をみると、「働いていない」「パートタイムで働いている」「フルタイムで働いている」の順に総じて介護の頻度が高くなっており、「ほぼ毎日ある」は「フルタイムで働いている」が54.5%に対し、「働いていない」では74.5%となっています。

●就労状況別・家族等による介護の頻度



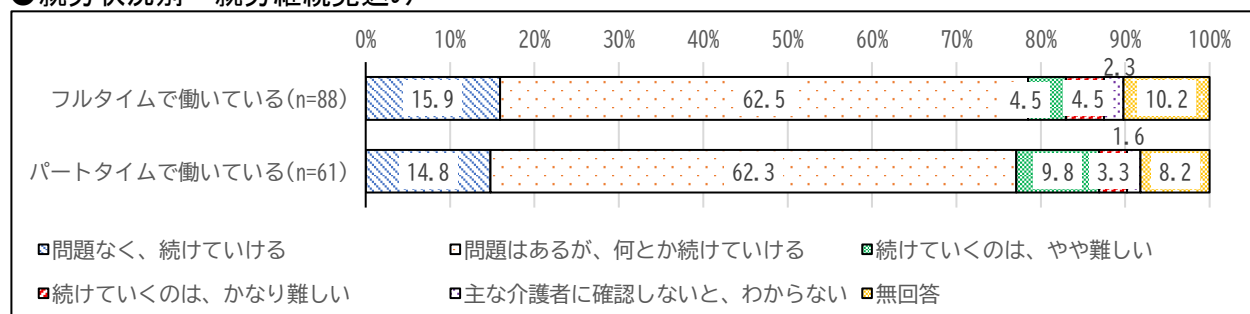
介護者の就労状況別に主な介護者が行っている介護をみると、「食事の準備（調理等）」「服薬」「衣服の着脱」などの日常生活に係る介護については「働いていない」で総じて割合が高くなっています。一方、「パートタイムで働いている」では「外出の付き添い、送迎等」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」などがやや高くなっています。

●就労状況別・主な介護者が行っている介護



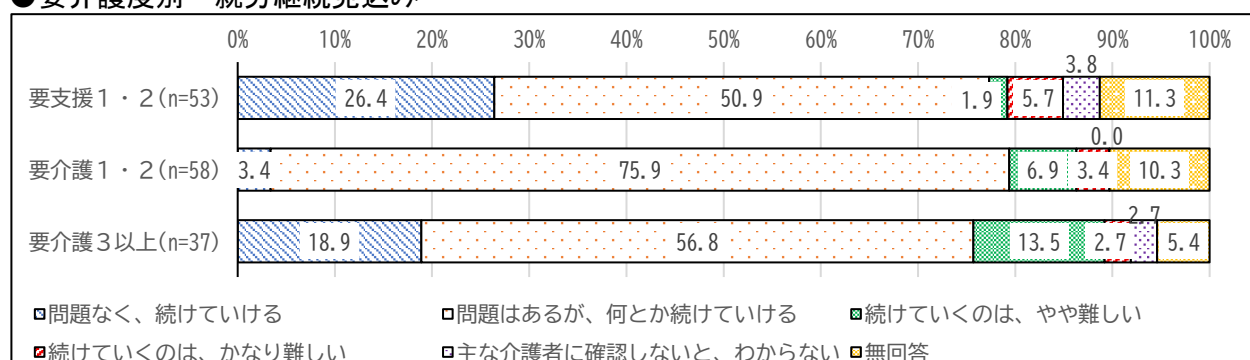
介護者の就労状況別に今後の就労継続見込みをみると、「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」がともに「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が一番高くなっています。一方、「問題なく、続けていける」の割合は「フルタイムで働いている」が僅かながら高く、一方「続けていくのはやや難しい」は「パートタイムで働いている」がやや高くなっています。

●就労状況別・就労継続見込み



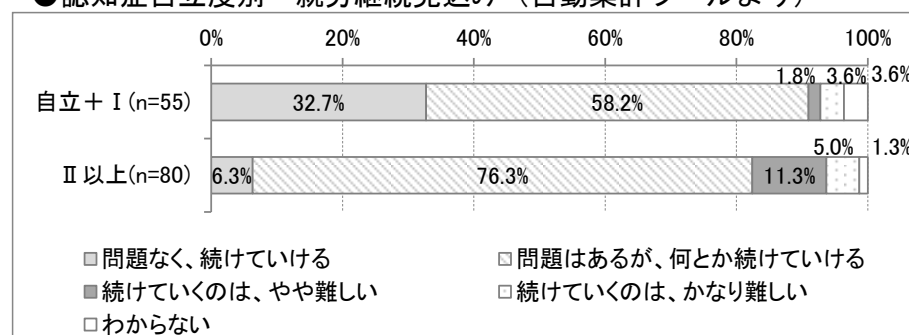
要介護度別に介護者の就労継続見込みをみると、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた“続けていける”の割合は要介護度による大きな違いは見られないものの、「要介護1・2」では「問題なく、続けていける」の割合が低く、「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が高くなっています。一方、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた“続けていくのは難しい”の割合は「要支援1・2」が7.6%に対し、「要介護1・2」では10.3%、「要介護3以上」では16.2%と重度化するにつれて高くなっています。

●要介護度別・就労継続見込み



自動集計ツールを利用して認知症自立度別に就労継続見込みをみると、「自立+Ⅰ」に比べ「Ⅱ以上」では「問題なく、続けていける」の割合が大きく低下し、「問題はあるが、何とか続けていける」のが大幅に上昇しています。また、「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」の割合も上昇しており、認知症の重度化により就労の継続には支障があるとする回答が多くなっています。

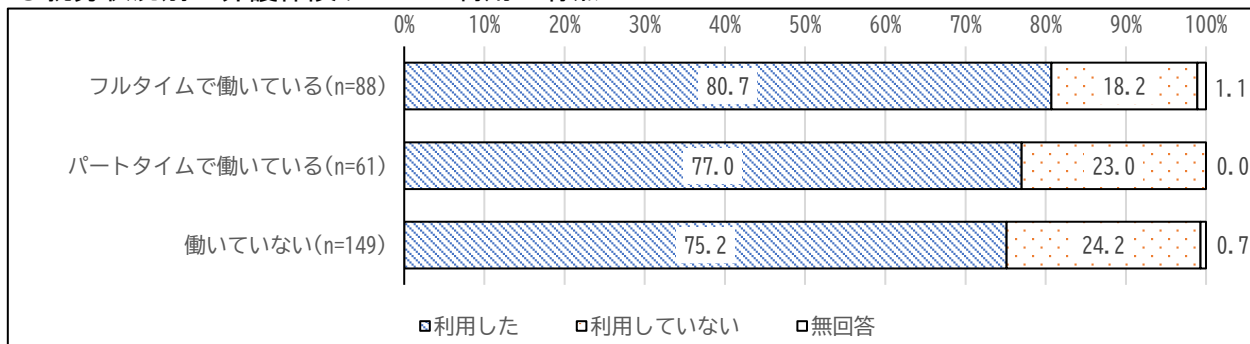
●認知症自立度別・就労継続見込み（自動集計ツールより）



③サービスの利用状況・不安を感じる介護と就労継続見込みの関係

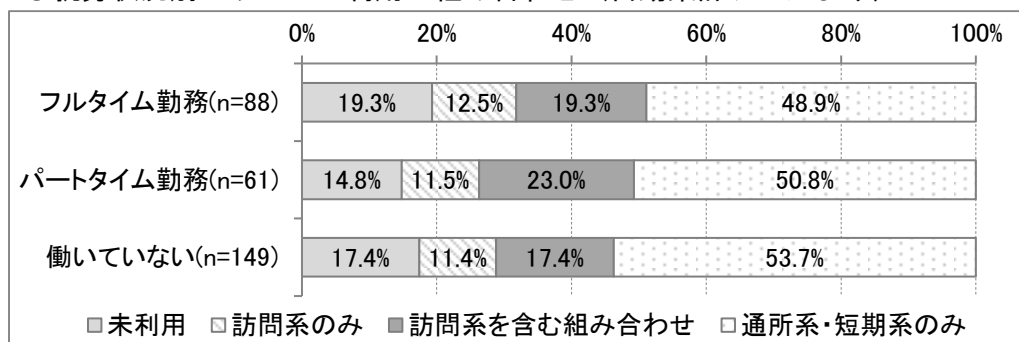
介護者の就労状況別に令和7年11月1か月間の介護保険サービスの利用状況をみると、大きな差ではないものの「利用した」の割合は「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」「働いていない」の順に高くなっています。

●就労状況別・介護保険サービス利用の有無



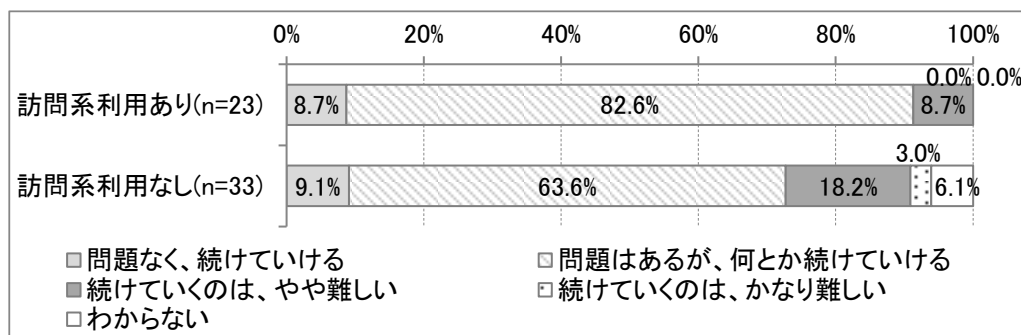
自動集計ツールを利用して、介護者の就労状況別に利用している介護保険サービスの組み合わせをみると、「フルタイム勤務」では「未利用」「訪問系のみ」が他の就労状況に比べ高く、「パートタイム勤務」では「訪問系を含む組み合わせ」、「働いていない」では「通所系・短期系のみ」が高くなっています。

●就労状況別・サービス利用の組み合わせ（自動集計ツールより）



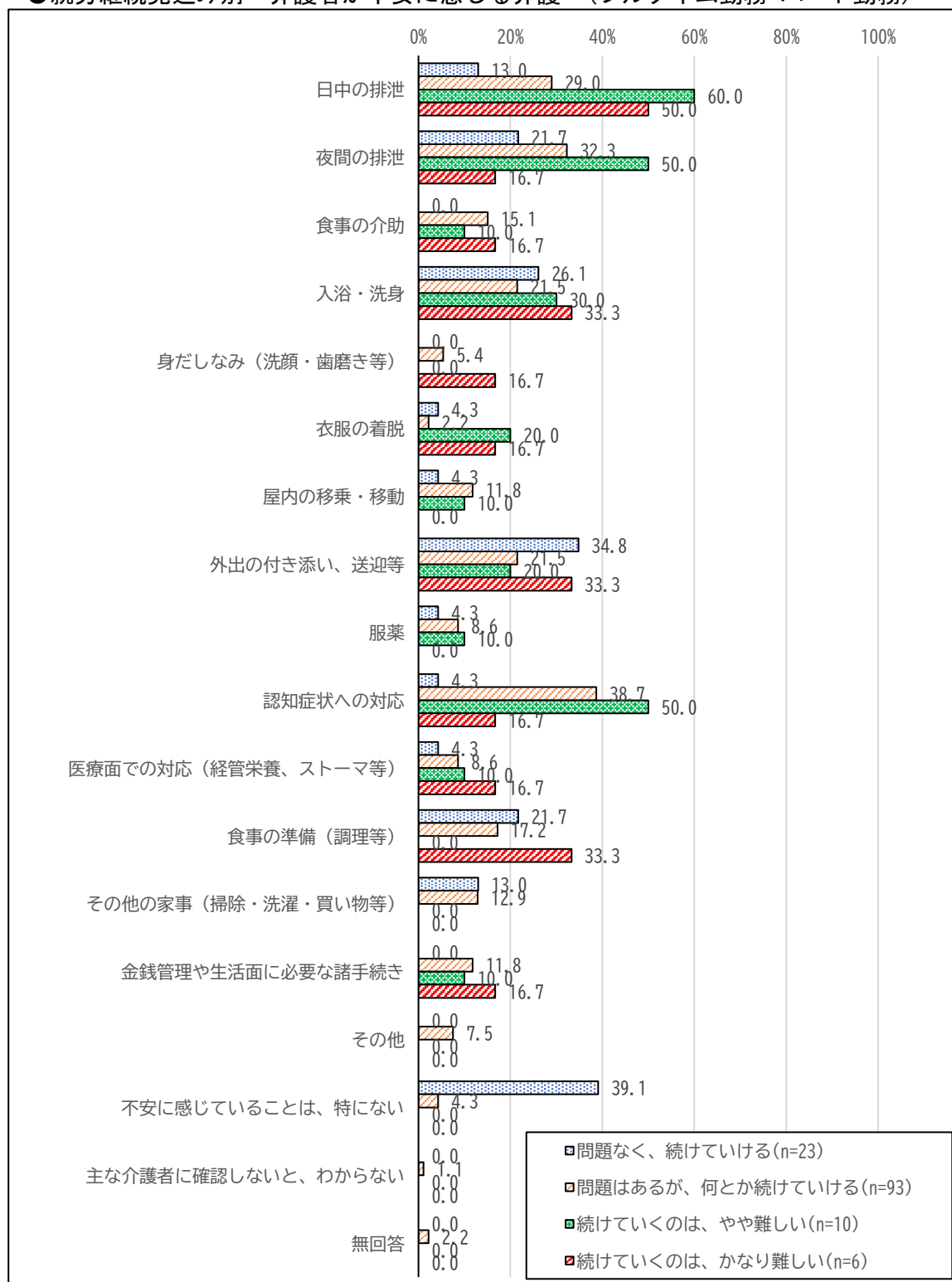
要介護2以上の対象者について、訪問系サービスの利用の有無別に介護者の就労継続見込みをみると、「訪問系利用あり」では「訪問系利用なし」に比べ「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が高く、「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」の割合がやや低くなっています。

●訪問系サービス利用の有無別・就労継続見込み（要介護2以上、自動集計ツールより）



就労継続見込み別に介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パート勤務）をみると、「問題なく、続けていける」と考えている介護者では「不安に感じていることは特にない」が39.1%で最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が34.8%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」と考えている介護者では「認知症状への対応」が38.7%で最も高く、次いで「夜間の排泄」が32.3%となっています。一方、「続けていくのは、やや難しい」と考えている介護者では「日中の排泄」「夜間の排泄」「認知症状への対応」などが高くなっています。

●就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パート勤務）

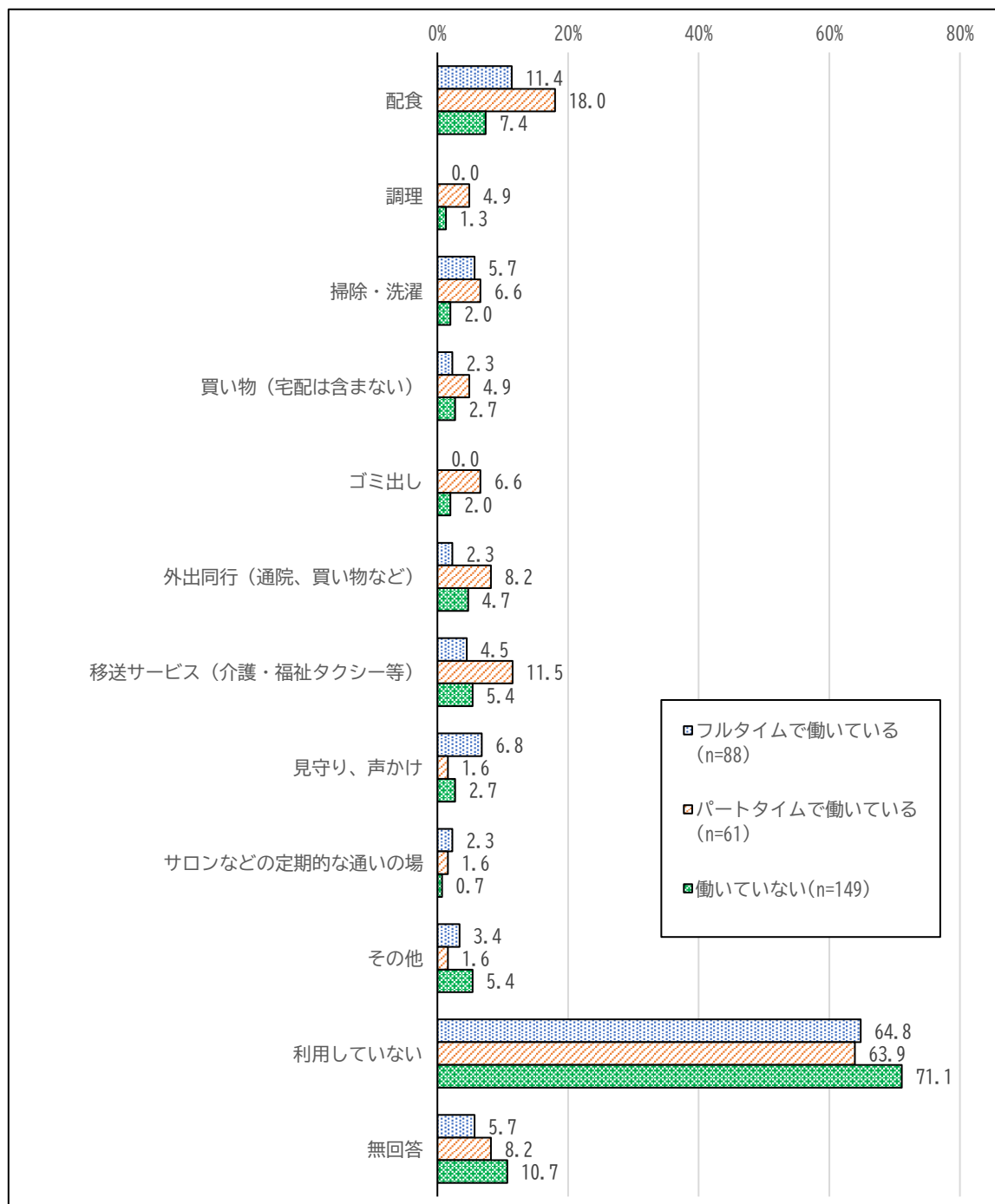


④介護保険外の支援・サービスの利用状況と施設等検討の状況

介護者の就労状況別に利用している介護保険外の支援・サービスをみると、いずれの就労状況でも「利用していない」が最も高くなっていますが、特に「働いていない」で高くなっています。

一方、利用しているサービスをみると、「フルタイムで働いている」では「配食」「見守り、声かけ」が、「パートタイムで働いている」では「配食」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「外出同行（通院、買い物など）」が高くなっています。総じて多くのサービスで「パートタイムで働いている」介護者の利用割合が高くなっています。

●就労状況別・利用している介護保険外の支援・サービス

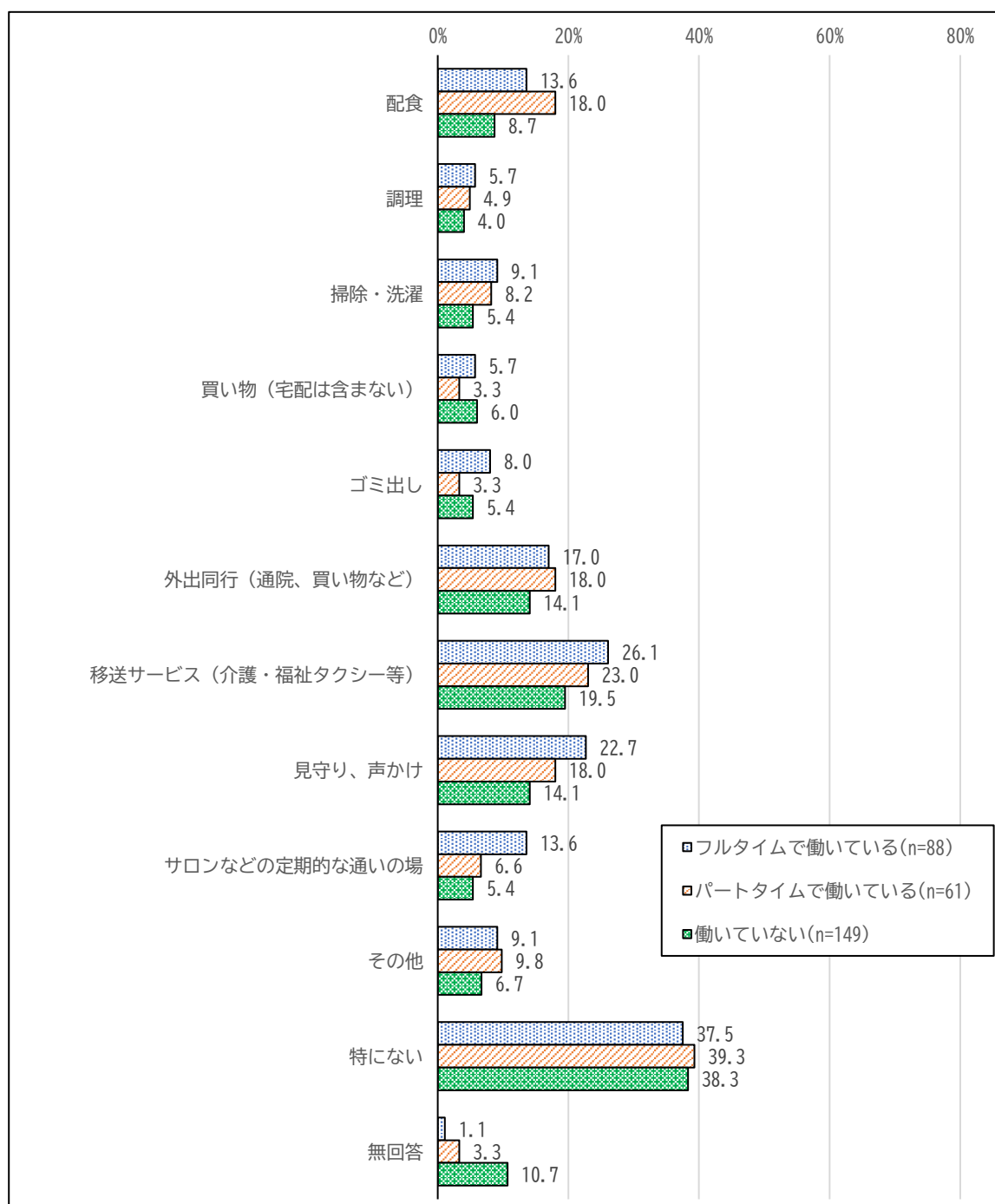


介護者の就労状況別に今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスをみると、いずれの就労状況でも「特にない」が最も高くなっています。

一方、必要と感じるサービスについては、「フルタイムで働いている」では、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「見守り、声かけ」「外出同行（通院、買い物など）」などが高く、「パートタイムで働いている」では、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「配食」「外出同行（通院、買い物など）」「見守り・声かけ」などが高くなっています。

全体的な傾向としては、現在利用している割合に比べ、各サービスともに今後必要と感じている割合が高くなっています。特に、「フルタイムで働いている」介護者でその傾向が顕著に表れています。

●就労状況別・在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス



⑤介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援について

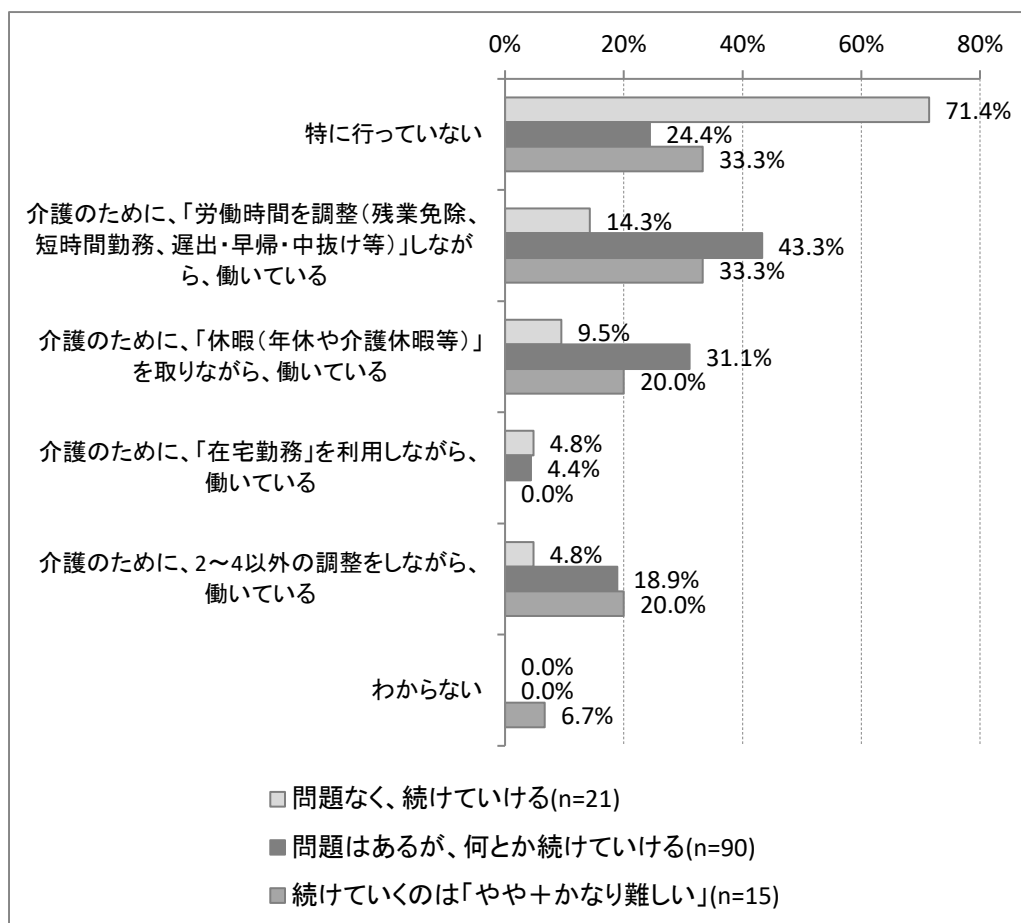
自動集計ツールを利用して、介護者の就労継続見込みと職場における働き方の調整との関連をみると、「問題なく、続けていける」とした介護者では、「特に行っていない」が71.4%と突出して高く、次いで「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早出・中抜け等）』しながら、働いている」（以下、「労働時間を調整しながら働いている」と記載）（14.3%）、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」（以下、「休暇を取りながら働いている」と記載）（9.5%）などとなっています。

「問題はあるが、何とか続けていける」とした介護者では、「労働時間を調整しながら働いている」が43.3%で最も高く、次いで「休暇を取りながら働いている」（31.1%）、「特に行っていない」（24.4%）などとなっています。

「続けて働くのは（やや＋かなり）難しい」とした介護者では、「特に行っていない」「労働時間を調整しながら働いている」がともに33.3%で最も高くなっています。

全体を通じてみると、「問題はあるが、何とか続けていける」とした介護者において何らかの調整を行っている割合が高くなっています。

●就労継続見込み別・介護のための働き方の調整 （フルタイム勤務+パートタイム勤務、自動集計ツールより）

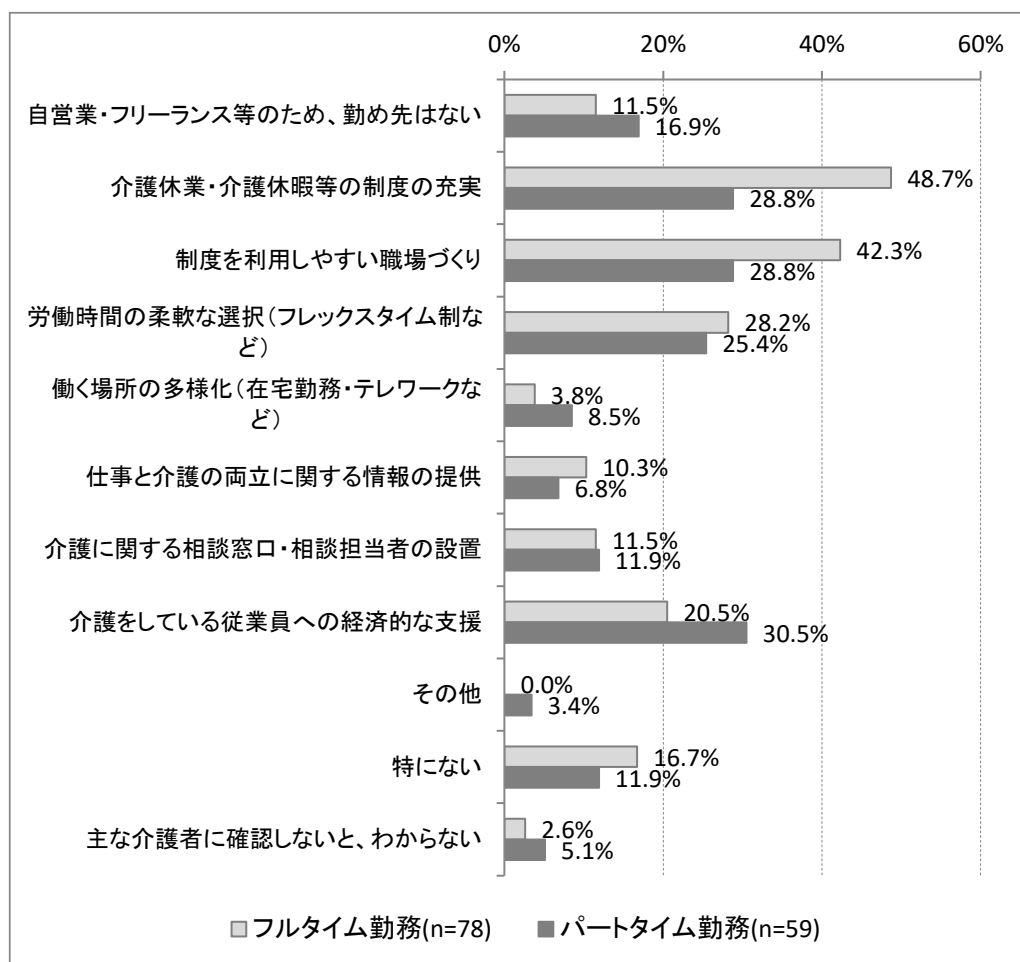


働いている介護者の就労形態と効果的な勤め先からの支援の関連をみると、「フルタイム勤務」では、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が48.7%で最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」(42.3%)、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」(28.2%) などとなっています。

「パートタイム勤務」では、「介護をしている従業員への経済的な支援」が30.5%で最も高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「制度を利用しやすい職場づくり」(ともに28.8%)、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」25.4%などとなっています。

●就労状況別・効果的な勤め先からの支援

(フルタイム勤務+パートタイム勤務、自動集計ツールより)



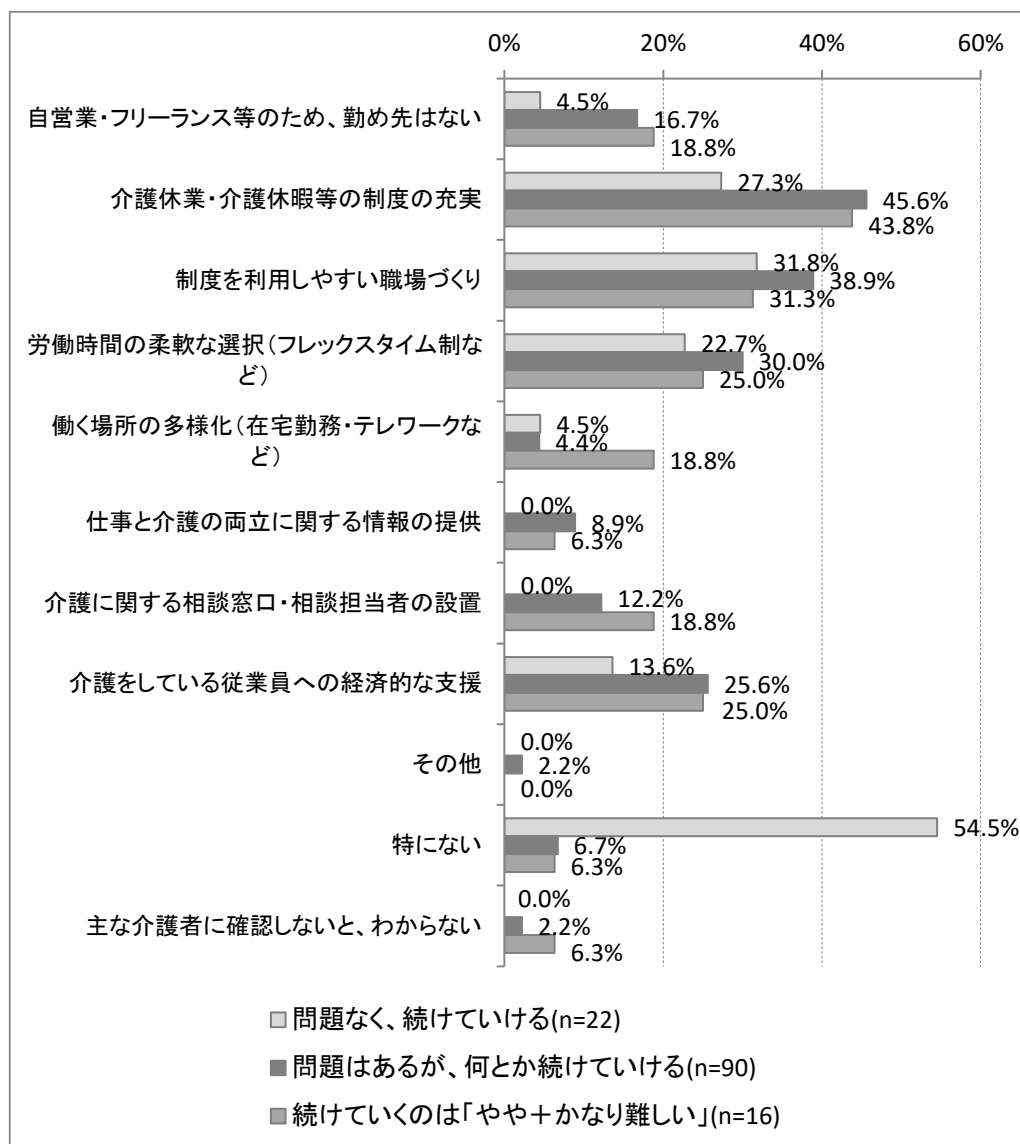
働いている介護者の就労継続見込みと効果的な勤め先からの支援の関連をみると、「問題なく続けていける」では「特になし」が54.5%で最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」(31.8%)「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(27.3%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(22.7%)などとなっています。

「問題はあるが、何とか続けていける」では、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が45.6%で最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」(38.9%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(30.0%)などとなっています。

一方、「続けていくのは(やや+かなり)難しい」では、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が43.8%で最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」(31.3%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(25.0%)「介護をしている従業員への経済的な支援」(ともに25.0%)などとなっています。

総じてみると、効果的な支援の回答上位項目では「問題はあるが、何とか続けていける」とする介護者からの回答割合が高くなっています。

●就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援 (フルタイム勤務+パートタイム勤務、自動集計ツールより)



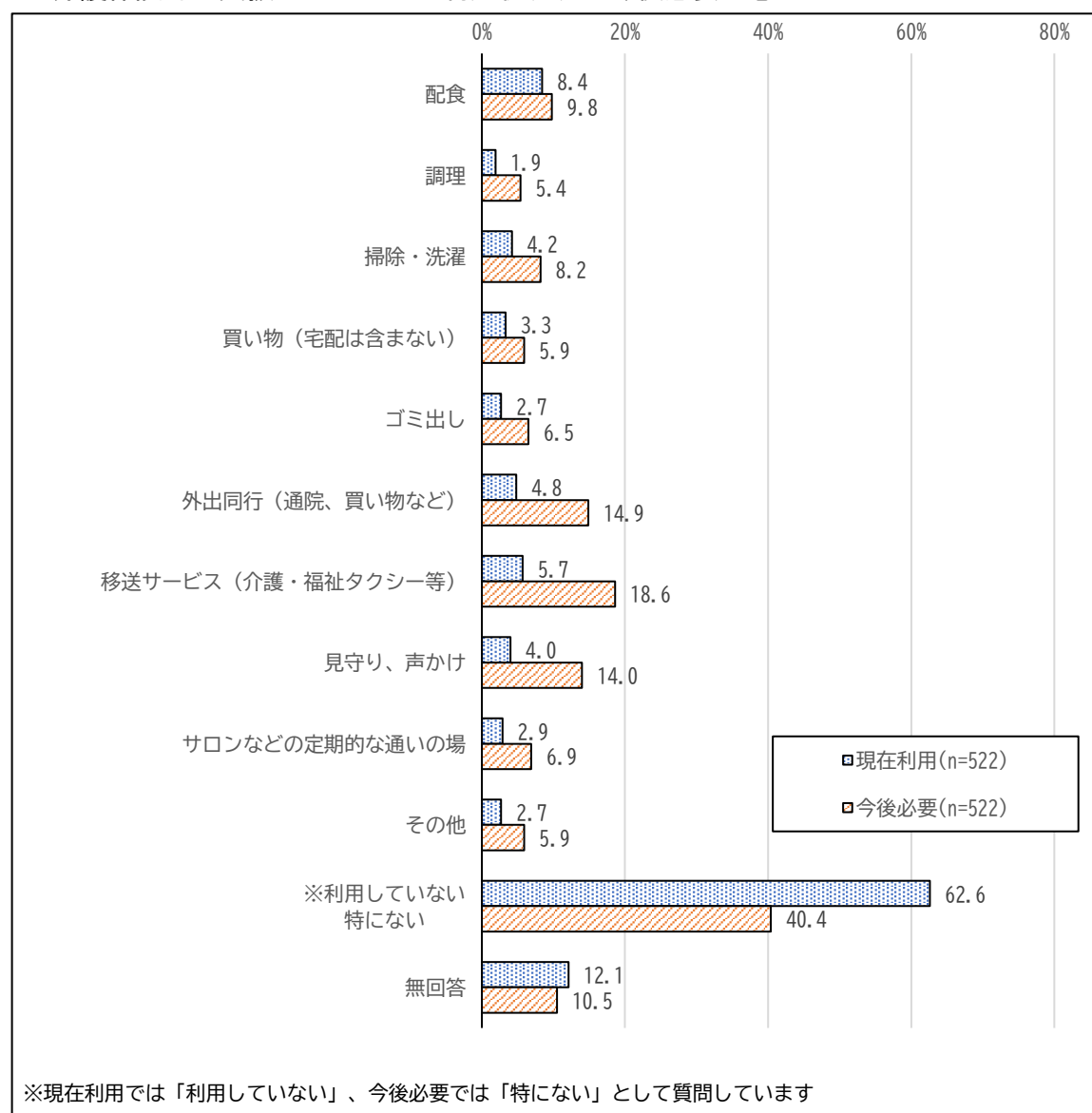
（３）介護保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

①介護保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

介護保険外の支援・サービスについて現在の利用状況をみると、「利用していない」が62.6%で最も高く、次いで「配食」(8.4%)、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」(5.7%)、「外出同行（通院、買い物など）」(4.8%) などとなっています。

今後の在宅生活継続に必要と感じるサービスについては、「特にない」が40.4%で最も高いものの、現在の利用状況に比べ割合は大きく低下しています。必要と感じるサービスでは、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が18.6%で最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」(14.9%)、「見守り、声かけ」(14.0%) などとなっており、総じて現在の利用割合を上回っています。

●介護保険外の支援・サービスの利用状況及び今後必要と感じるサービス

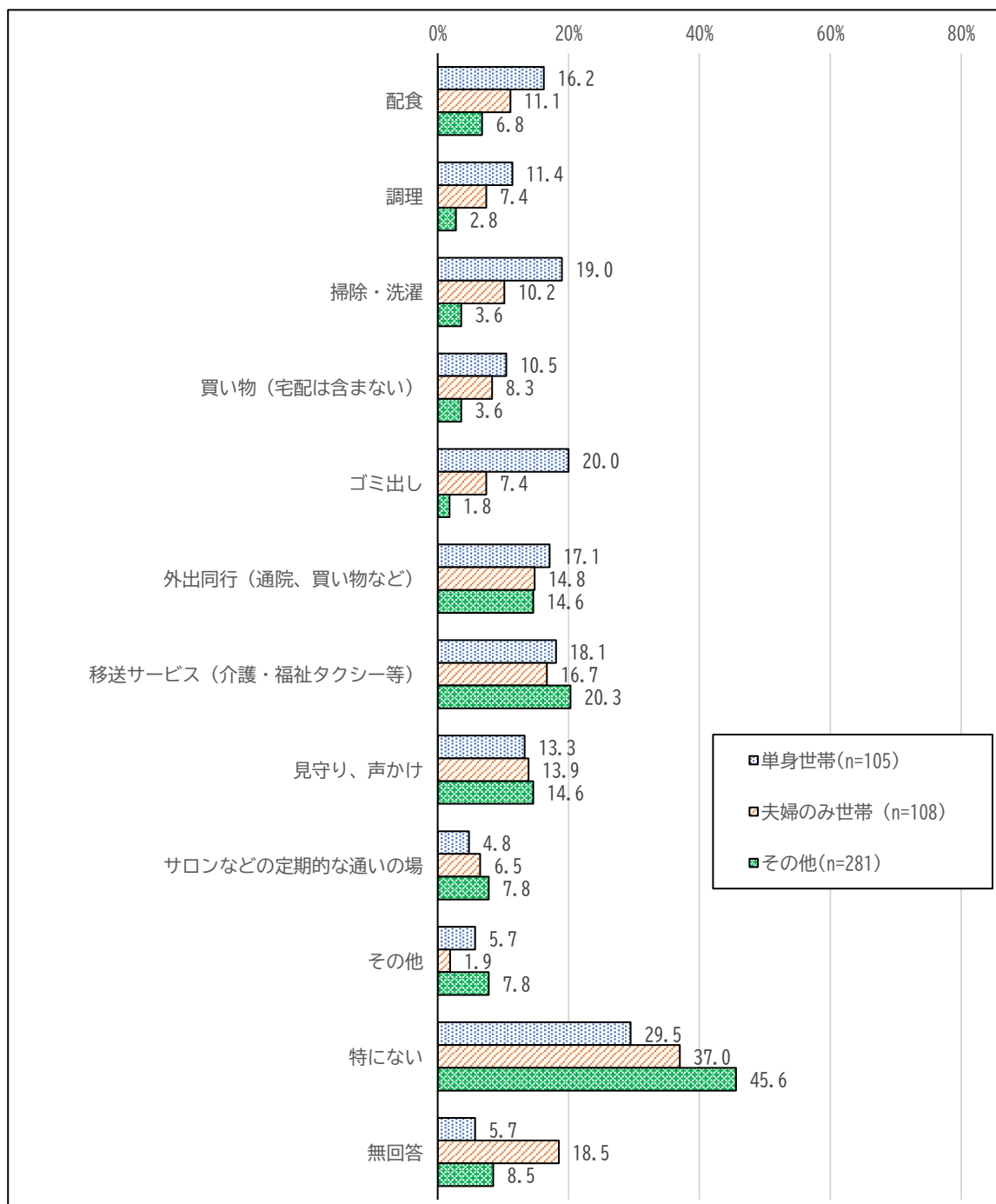


②世帯類型、要介護度別の必要と感じる支援・サービス

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて世帯類型別にみると、「単身世帯」では「特にない」の割合が他の世帯類型に比べやや低く、「ゴミ出し」「掃除・洗濯」などを中心に日常の家事を代行するサービスへのニーズが総じて高くなっています。

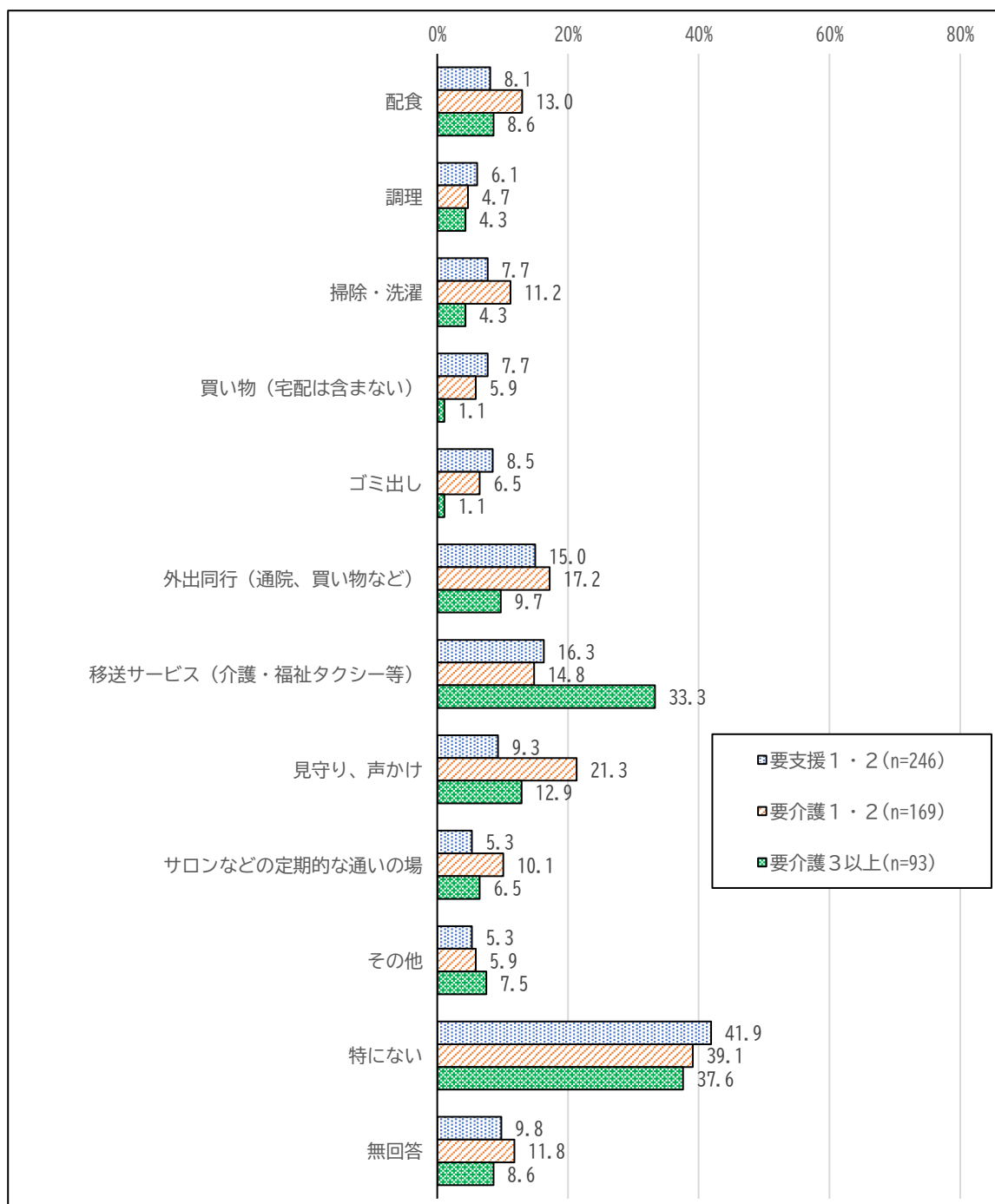
一方、「その他」の世帯では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「見守り、声かけ」「サロンなどの通いの場」などニーズが他に比べやや高く、日常の家事に関するサービスは総じてニーズが低くなっています。

●世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



要介護度別に在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスをみると、「特にない」の割合が高くなっていますが、現在の利用状況で「利用していない」と回答した割合に比べ、いずれも大きく低下しており、要介護度に関わらず今後は必要と考えている状況がうかがえます。必要と感じるサービスについて要介護度別の特徴をみると、「要支援１・２」では「ゴミ出し」「買い物（宅配は含まない）」など日常の家事代行サービスが高く、「要介護１・２」では家事代行とともに「外出同行（通院、買い物など）」「見守り、声かけ」など生活支援のサービス、「要介護３以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が他の要介護度に比べ高くなっています。

●要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

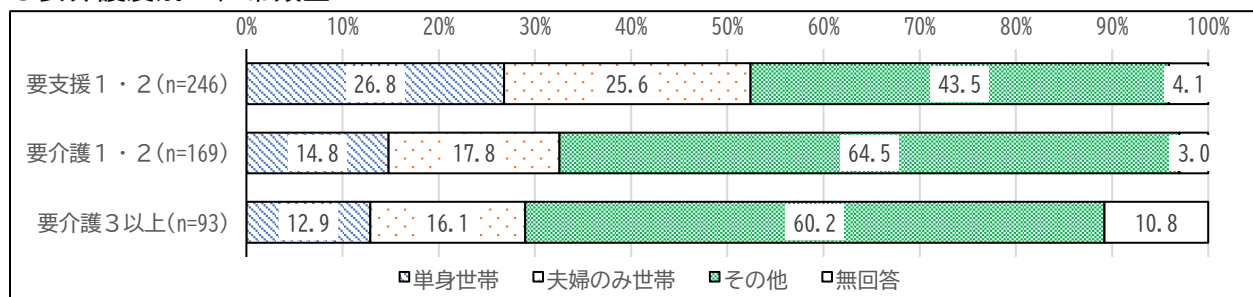


(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

①要介護度と世帯類型

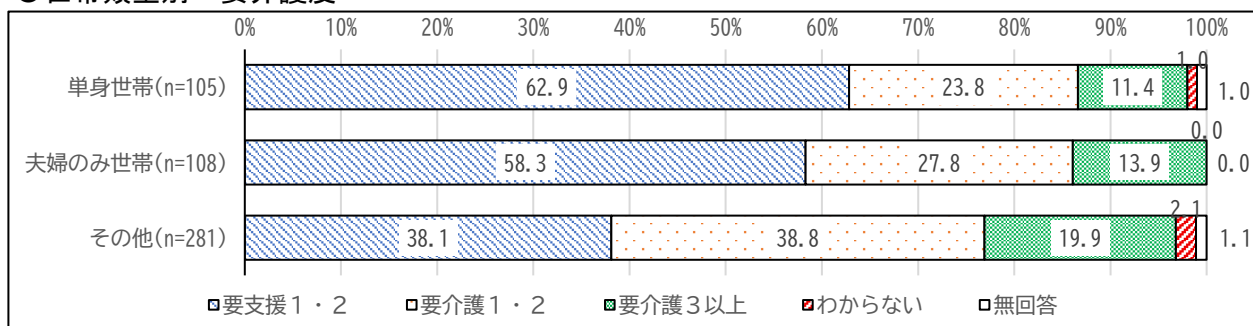
要介護度別に世帯類型をみると、どの介護度も「その他」の世帯の割合が高くなっていますが、「要支援1・2」では「単身世帯」「夫婦のみ世帯」の割合が他に比べ高くなっています。

●要介護度別・世帯類型



世帯類型別に要介護度をみると、「単身世帯」「夫婦のみ世帯」「その他」の世帯の順に「要支援1・2」の割合が低下し、「要介護1・2」及び「要介護3以上」の割合が上昇しています。

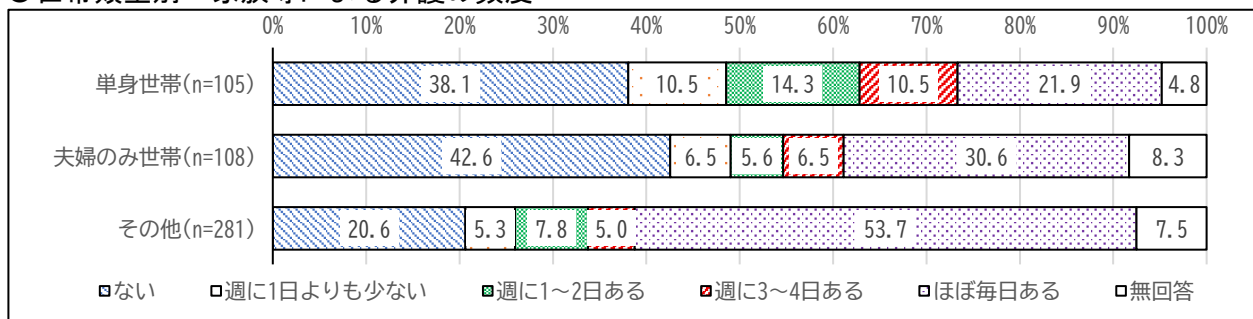
●世帯類型別・要介護度



世帯類型別に家族等による介護の頻度を比較すると、「ほぼ毎日ある」の割合は「その他」の世帯が53.7%で最も高く、「単身世帯」が21.9%で最も低くなっています。

一方、「ない」の割合は「夫婦のみ世帯」が42.6%で最も高く、「その他」の世帯が20.6%で最も低くなっています。

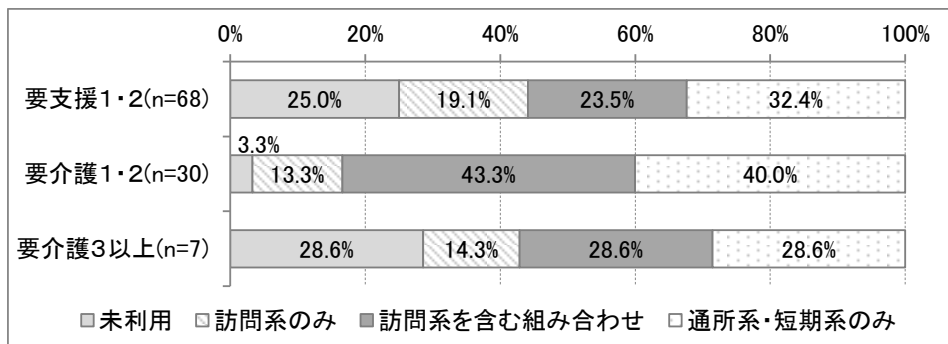
●世帯類型別・家族等による介護の頻度



②要介護度×世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

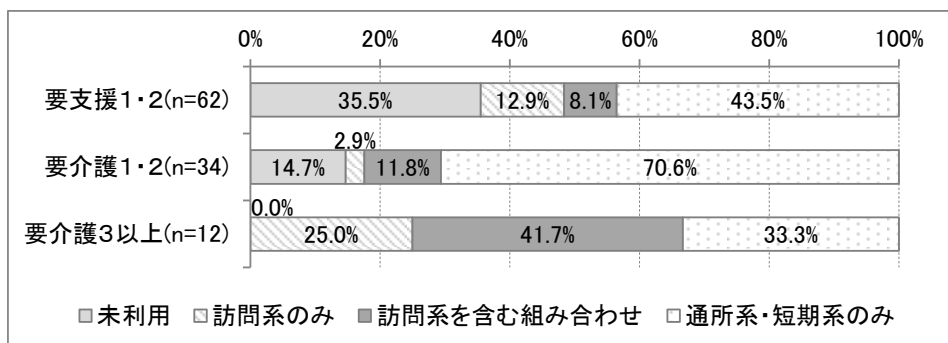
自動集計ツールを利用して、世帯類型ごとに、要介護度別のサービス利用の組み合わせをみると、「単身世帯」においては「要介護１・２」では「要支援１・２」に比べ、「未利用」の割合が低く、「訪問系を含む組み合わせ」と「通所系・短期系のみ」の割合が高くなっています。一方、「要介護３以上」では「要介護１・２」に比べ「未利用」の割合が高く、「訪問系を含む組み合わせ」「通所系・短期系のみ」の割合が低くなっています。

●要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯、自動集計ツールより）



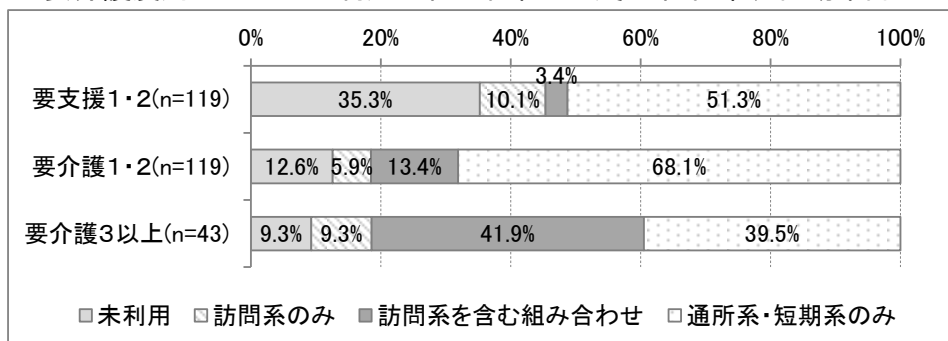
「夫婦のみ世帯」でみると、「要介護１・２」では「要支援１・２」に比べ「未利用」の割合が低く、「通所系・短期系のみ」の割合が高くなっています。一方、「要介護３以上」では「要介護１・２」に比べ、「未利用」「通所系・短期系のみ」の割合が低く、「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっています。

●要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯、自動集計ツールより）



「その他」の世帯でみると、概ね「夫婦のみ世帯」と同様の傾向にあり、「要介護１・２」では「要支援１・２」に比べ「未利用」の割合が低く、「通所系・短期系のみ」の割合が高くなっています、また、「要介護３以上」では「要介護１・２」に比べ「未利用」「通所系・短期系のみ」の割合が低く、「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっています。

●要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯、自動集計ツールより）

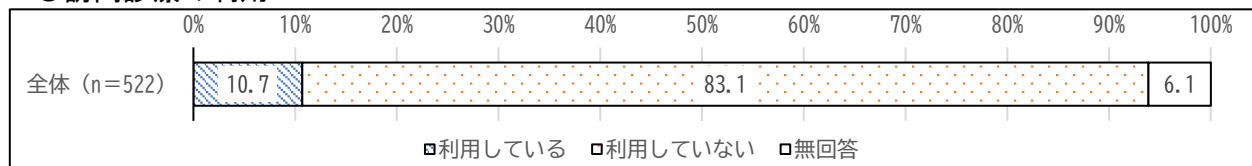


（５）医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

①訪問診療の利用割合

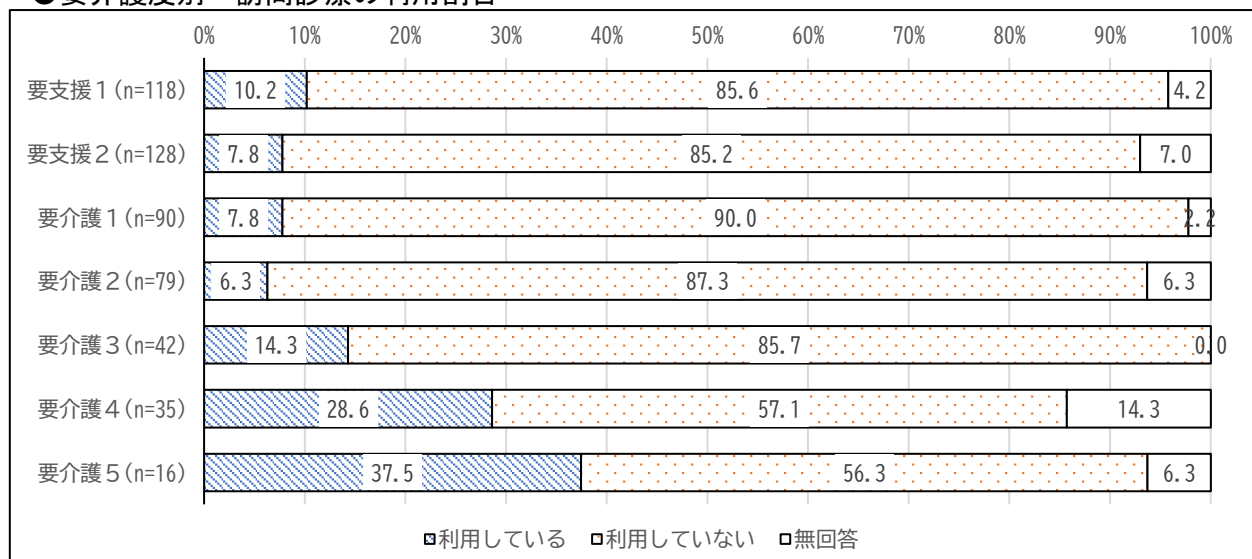
訪問診療は、「利用している」が10.7%、「利用していない」が83.1%となっています。

●訪問診療の利用



要介護度別にみると、「要介護３」以上では重度化に伴い「利用している」の割合が高くなっており、「要介護５」では37.5%となっています。

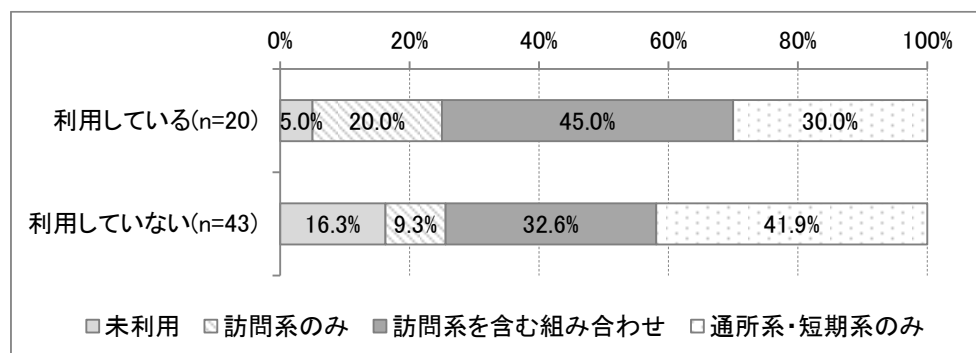
●要介護度別・訪問診療の利用割合



②訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

「要介護３以上」の対象者について、訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせをみると、「利用している」では「訪問系を含む組み合わせ」が45.0%で最も高く、次いで「通所系・短期系のみ」が30.0%、「訪問系のみ」が20.0%の順となっています。「利用していない」では「通所系・短期系のみ」が41.9%で最も高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が32.6%、「未利用」が16.3%の順となっています。

●訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護３以上、自動集計ツールより）



(6) 見附市独自設問

①ケアプランの満足度

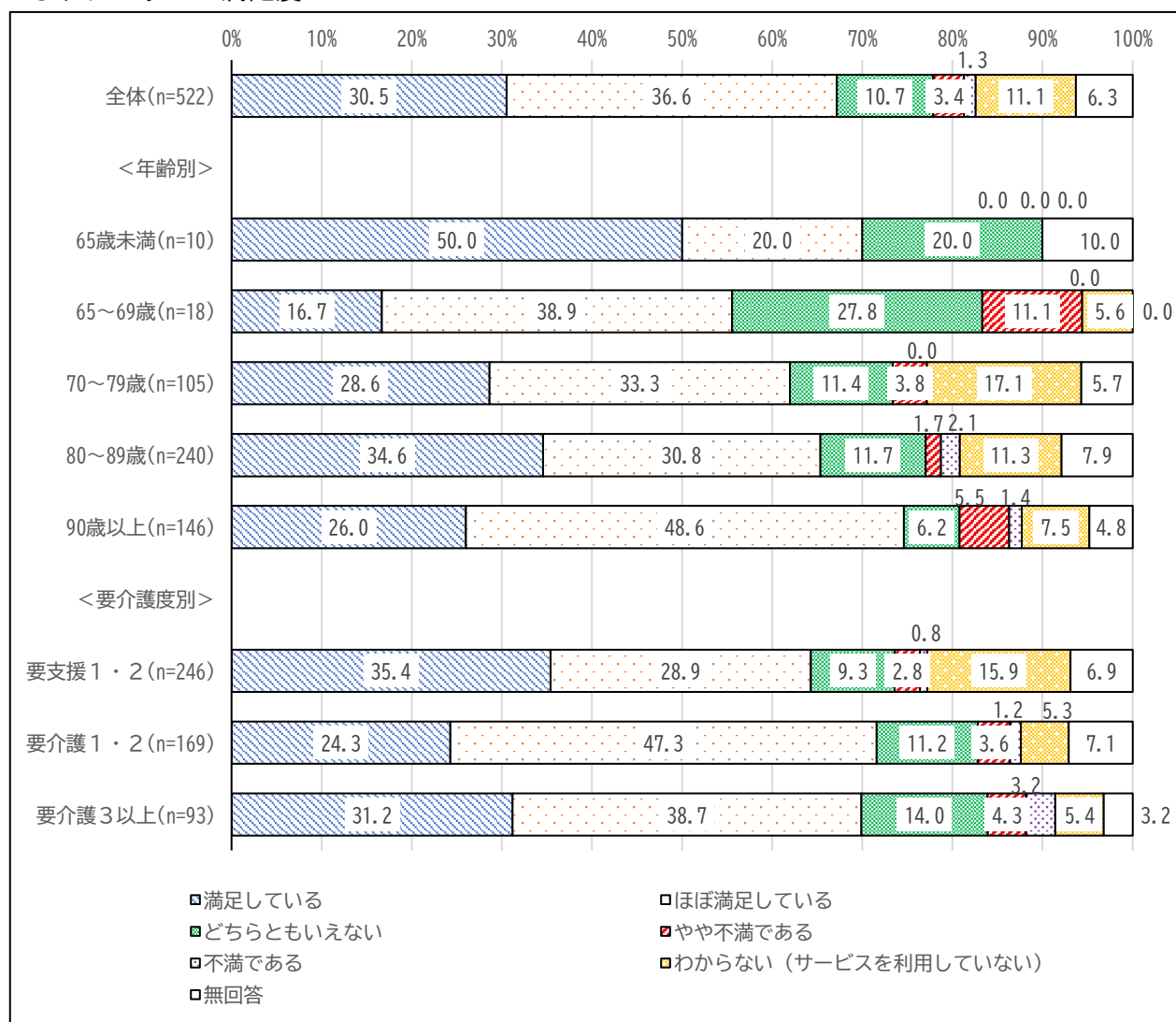
ケアプランの内容に満足していますか。(1つを選択)

ケアプランの内容についての満足度については、「満足している」(30.5%)と「ほぼ満足している」(36.6%)を合わせた“満足”の割合が67.1%、「やや不満である」(3.4%)と「不満である」(1.3%)を合わせた“不満”の割合が4.7%となり、概ね満足しているとの結果となっています。

年齢別にみると、年代が高くなるほど総じて“満足”の割合が上昇しています。また、回答者数は少ないものの「65歳未満」も“満足”の割合が比較的高くなっています。

要介護度別にみると、「要介護1・2」「要介護3以上」で“満足”の割合がやや高くなっています。

●ケアプランの満足度

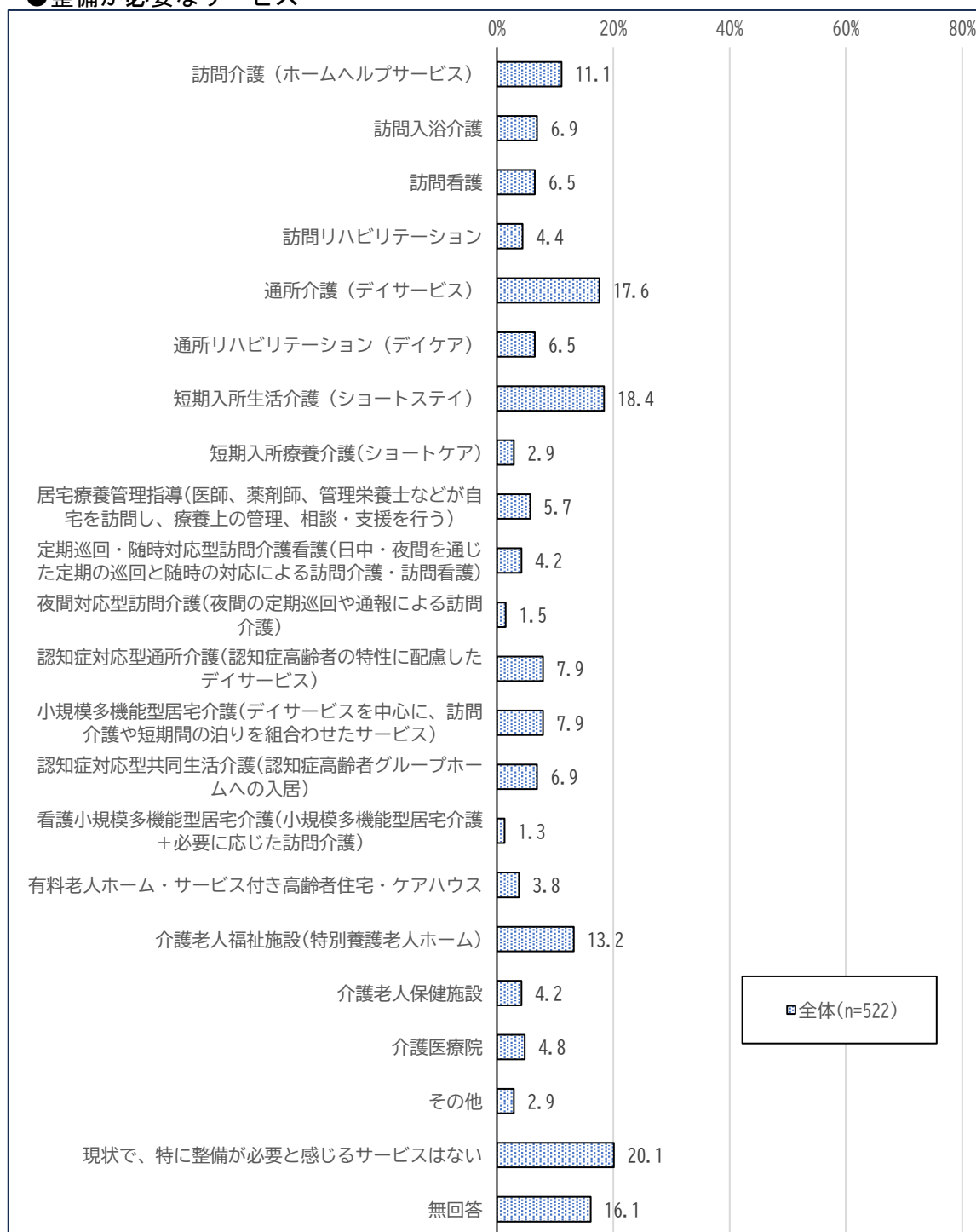


②整備が必要なサービス

住み慣れた自宅や地域で暮らしていくために、整備が必要(現在利用しているが、さらなる充実が必要)と感じる介護保険適用のサービス等をお選びください。(3 つまで選択可)

住み慣れた自宅や地域で暮らしていくために、整備が必要と感じる介護保険適用のサービス等については、「現状で、特に整備が必要と感じるサービスはない」が20.1%で最も高くなっています。一方、必要と感じるサービスでは「短期入所生活介護(ショートステイ)」が18.4%、「通所介護(デイサービス)」が17.6%、「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」が13.2%などとなっています。

●整備が必要なサービス



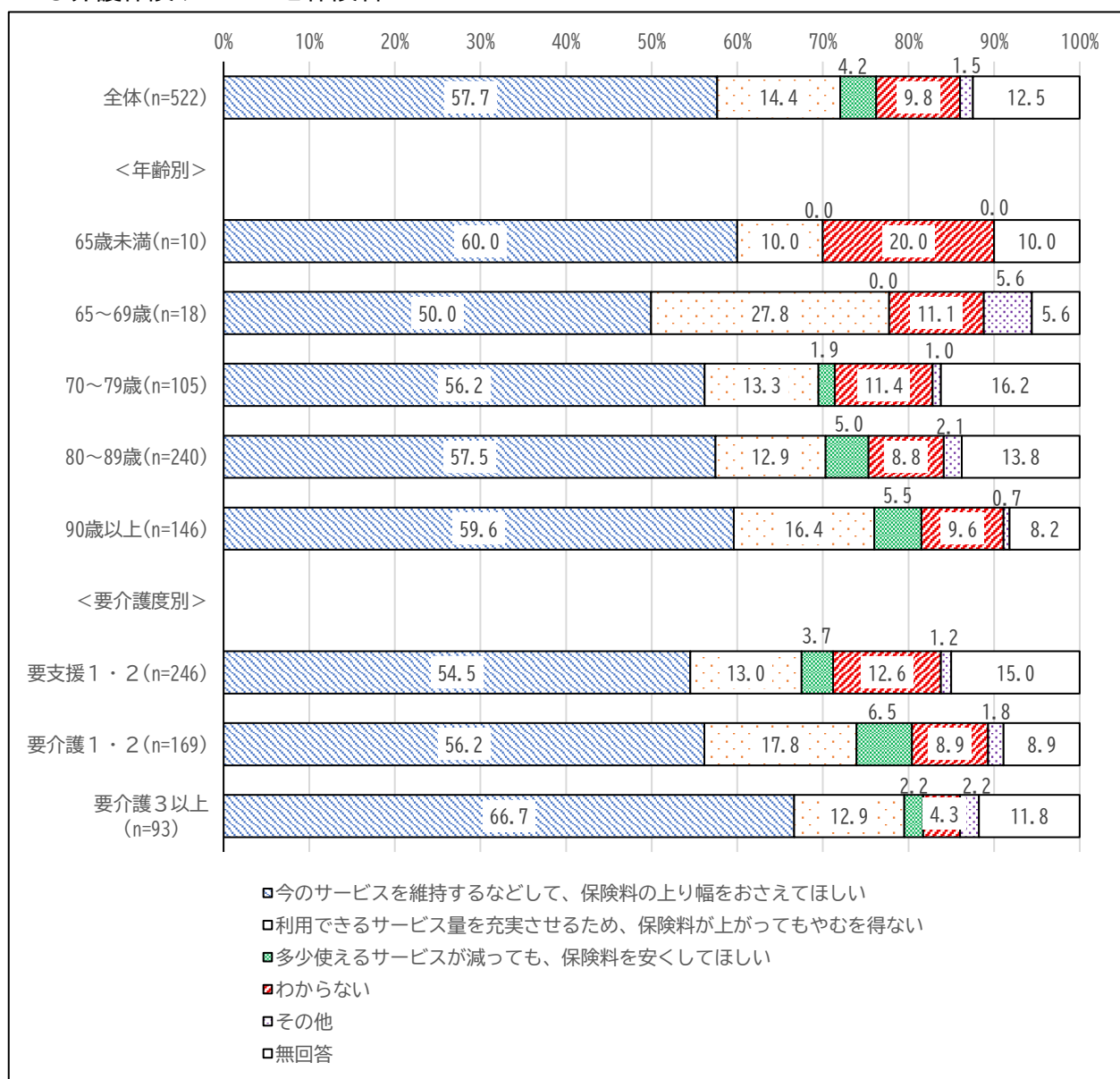
③介護保険サービスと保険料について

介護保険の利用者の増加と高齢化の進行により、サービス量を現状程度に保っていくためには、介護保険料も高くなっていきます。あなたは介護保険のサービスと保険料の関係について、おおよそどのように考えていますか。（1つを選択）

介護保険のサービスと保険料の関係については、「今のサービスを維持するなどして、保険料の上がり幅をおさえてほしい」が57.7%、「利用できるサービス量を充実させるため、保険料が上がってもやむを得ない」が14.4%、「多少使えるサービスが減っても、保険料を安くしてほしい」が4.2%となっています。

年齢別、要介護度別にみると、全年代、全要介護度で「今のサービスを維持するなどして、保険料の上り幅をおさえてほしい」が高くなっていますが、年齢別では「65～69歳」、要介護度別では「要介護1・2」で「利用できるサービス量を増加させるため、保険料が上がってもやむを得ない」が他に比べ高くなっています。

●介護保険サービスと保険料



④家族による介護か、専門家による介護を希望するか

ご本人(調査対象者)にお伺いします。家族による介護を希望しますか、それとも専門家による介護を希望しますか。(1つを選択)

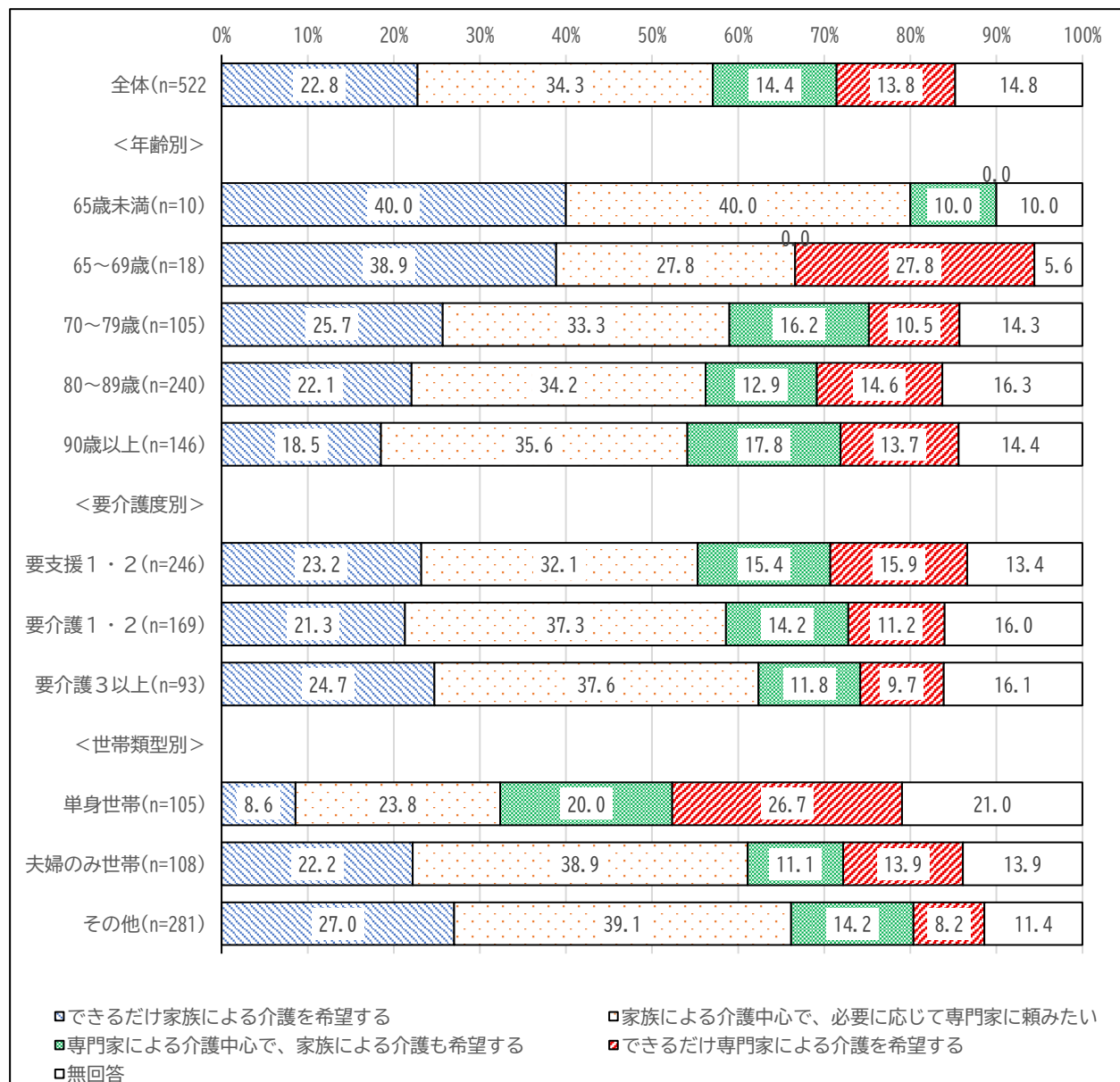
家族による介護か、専門家による介護を希望するかについて本人に尋ねたところ、「できるだけ家族による介護を希望する」(22.8%)、「家族による介護中心で、必要に応じて専門家に頼みたい」(34.3%)を合わせた“家族による介護”を希望する割合が57.1%に対し、「専門家による介護中心で、家族による介護も希望する」(14.4%)、「できるだけ専門家による介護を希望する」(13.8%)を合わせた“専門家による介護”を希望する割合は28.2%となっています。

年齢別にみると、「65～69歳」では「できるだけ家族による介護を希望する」と「できるだけ専門家による介護を希望する」がいずれも他の年代より高くなっています。

要介護度別では、重度化に伴い“家族による介護”を希望する割合が高くなっています。

世帯類型別では、「単身世帯」では“専門家による介護”を希望する割合が高くなっています。

●介護者の希望(本人)



主な介護者の方にお伺いします。家族による介護を希望しますか、それとも専門家による介護を希望しますか。（1つを選択）

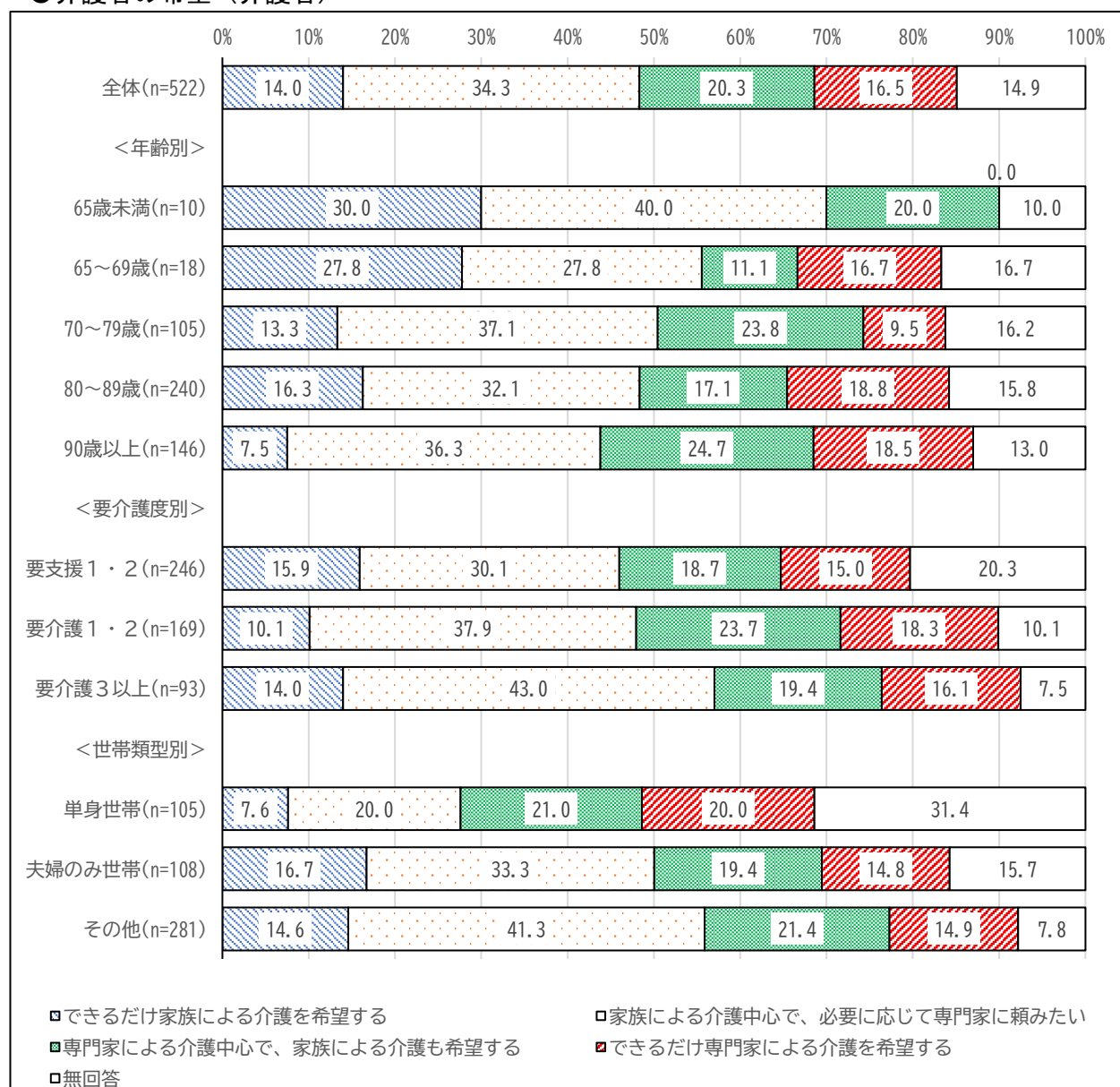
家族による介護か、専門家による介護を希望するかについて主な介護者に尋ねたところ、「できるだけ家族による介護を希望する」（14.0%）、「家族による介護中心で、必要に応じて専門家に頼みたい」（34.3%）を合わせた“家族による介護”を希望する割合が 48.3%に対し、「専門家による介護中心で、家族による介護も希望する」（20.3%）、「できるだけ専門家による介護を希望する」（16.5%）を合わせた“専門家による介護”を希望する割合は 36.8%となり、「本人の希望」に比べ“専門家による介護”を希望する割合が高くなっています。

年齢別にみると、年代が上がるにつれて“家族による介護”を希望する割合が低下し、“専門家による介護”の割合が上昇しています。

要介護度別では、重度化に伴い“家族による介護”を希望する割合が増加しています。

世帯類型別では、「夫婦のみ世帯」「その他」の世帯で“家族による介護”の割合が高くなっています。

●介護者の希望（介護者）



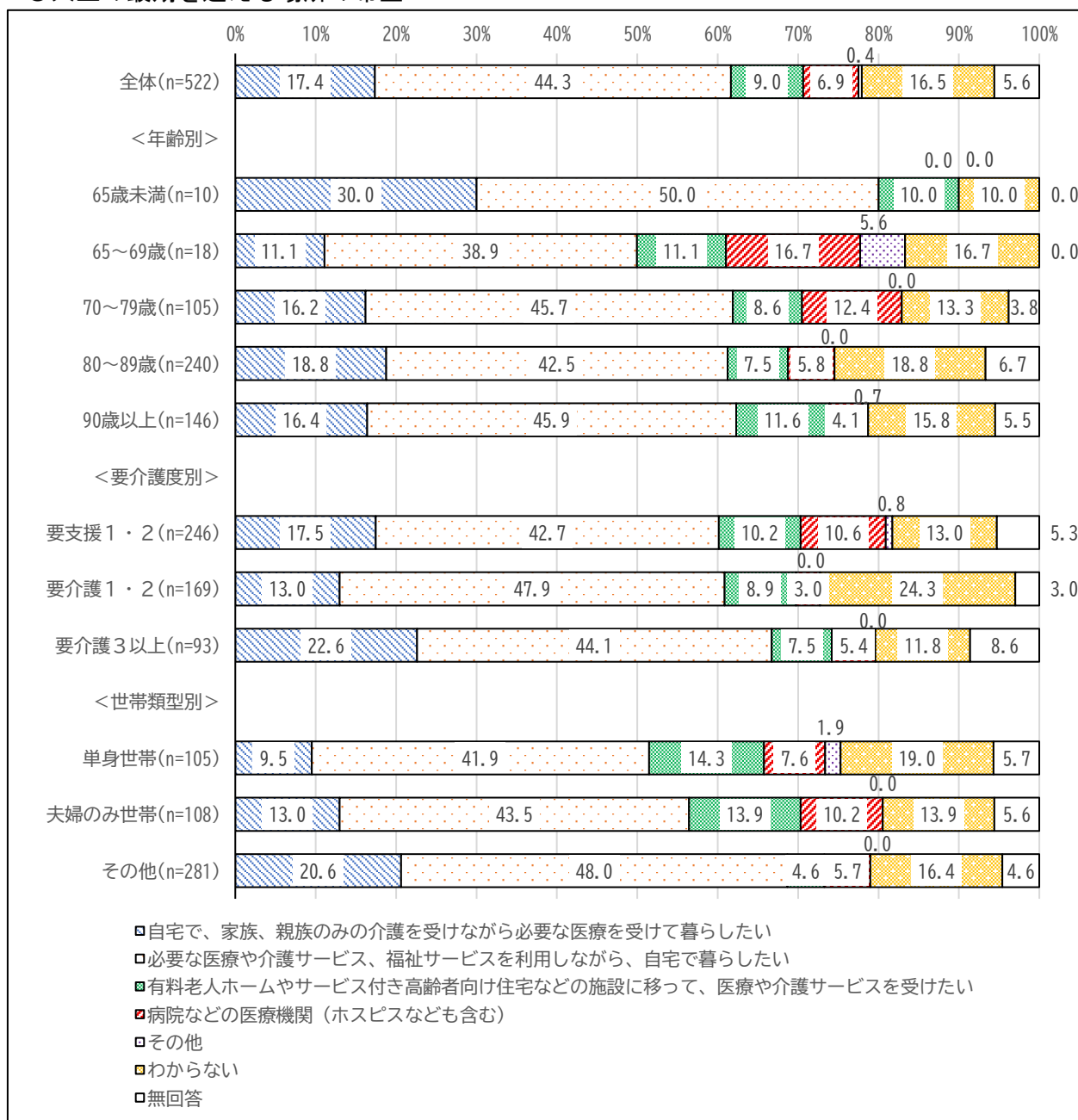
⑤人生の最期について

今後の暮らしについて、あなたは人生の最期をどこで迎えたいと思いますか。（1つを選択）

人生の最期をどこで迎えたいかを尋ねたところ、「自宅で、家族、親族のみの介護を受けながら必要な医療を受けて暮らしたい」（17.4%）、「必要な医療や介護サービス、福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」（44.3%）を合わせた“自宅で暮らしたい”が61.7%となる一方、「有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などの施設に移って、医療や介護サービスを受けたい」（9.0%）、「病院などの医療機関（ホスピスなども含む）」（6.9%）を合わせた“施設・医療機関”の割合は15.9%となっています。また、「わからない」が16.5%となっています。

年齢別では「65～69歳」「70～79歳」で、要介護度別では「要支援1・2」で、家族形態別では「単身世帯」「夫婦のみ世帯」で“施設・医療機関”で最期を迎えたいとする割合がやや高くなっています。

●人生の最期を迎える場所の希望



【概要版】
在宅介護実態調査
報告書

発行日：令和 8 年 3 月

発 行：見附市健康福祉課 介護保険係

〒954-0052 新潟県見附市学校町 2-13-30

電話：0258-61-1350